

令和 5（2023）年度 第 6 回
大韓民国忠清北道忠州市への青少年交流団
派遣事業報告書
（抜粋版）

～ 目 次 ～

忠州市の概要……………	2
武蔵野市と忠州市の青少年交流の歩み…………	3
事業日程……………	4
記録写真……………	5
団員感想文・研究テーマ……………	9
団員アンケート結果……………	49
保護者アンケート結果……………	69

交流団 訪問地図



※ 武蔵野市から忠州市までの直線距離は、約 1050 km です。

忠

州市は、朝鮮半島における中原文化の中心地として、歴史的にも古くから発展してきた地域です。

首都ソウルから直線で約 100 km の距離にあり、忠清北道の第 2 の都市として、先端的な産業団地や物流拠点が集まる、活力あふれるまちです。武術の街として知られ、韓国伝統武術「テッキョン」が有名です。リンゴや桃などの果実栽培も盛んにおこなわれています。

また、韓国有数の温泉地「水安堡温泉」や韓国最大のダム湖「忠州湖」を擁し、自然環境豊かな観光都市としての魅力を高めているほか、世界ボート選手権を誘致するなど、水上スポーツのメッカとしての活動も盛んです。

武蔵野市と忠州市の青少年交流の歩み

平成 19 (2007) 年	8 月	第 1 回青少年交流団を派遣（団員 9 名、引率 3 名）
平成 20 (2008) 年	8 月	忠州市からの青少年交流団受入（中止）
平成 21 (2009) 年	夏	忠州市からの青少年交流団受入（中止）
平成 22 (2010) 年	8 月	忠州市からの青少年交流団受入（団員 10 名、引率 3 名）
平成 23 (2011) 年	8 月 5 日～8 日	第 2 回青少年交流団を派遣（団員 8 名、引率 3 名）
平成 24 (2012) 年	8 月 3 日～6 日	忠州市からの青少年交流団受入（団員 11 名、引率 2 名）
平成 25 (2013) 年	8 月 2 日～5 日	第 3 回青少年交流団を派遣（団員 12 名、引率 3 名）
平成 26 (2014) 年	8 月 21 日～25 日	忠州市からの青少年交流団受入（団員 12 名、引率 3 名）
平成 27 (2015) 年	8 月 6 日～10 日	第 4 回青少年交流団を派遣（中止）
平成 28 (2016) 年	8 月 4 日～8 日	第 4 回青少年交流団を派遣（団員 12 名、引率 3 名）
平成 29 (2017) 年	8 月 3 日～5 日	交流 20 周年記念 韓国江東区・忠州市への市民ツアー
	8 月 17 日～21 日	忠州市からの青少年交流団受入（団員 12 名、引率 3 名）
平成 30 (2018) 年	8 月 2 日～6 日	第 5 回青少年交流団を派遣（団員 12 名、引率 3 名）
令和 2 (2020) 年		新型コロナウイルス感染症により派遣中止
令和 3 (2021) 年		新型コロナウイルス感染症により派遣中止
令和 4 (2022) 年		新型コロナウイルス感染症により派遣中止
令和 5 (2023) 年	7 月 27 日～31 日	第 6 回青少年交流団を派遣（団員 12 名、引率 3 名）

事業日程

日時		内容
6/18 (日)	10:00～13:00	結団式、第1回事前研修
6/28 (水)	18:00～20:30	第2回事前研修
7/12 (水)	18:00～20:30	第3回事前研修
7/21 (金)	13:00～16:00	第4回事前研修
7/27 (木)	7:50	出発式（武蔵野市役所集合）
	9:10	羽田空港到着（チェックイン等手続き）
	12:05	羽田空港出発
	14:25	金浦空港到着（入国手続き）
	18:00	夕食（プルコギ）
	19:45	忠州市内ホテルチェックイン
7/28 (金)	10:00	歓迎式 忠州市役所表敬訪問
	11:00	施設見学および体験（テッキョン体験）
	12:45	昼食（韓国式しゃぶしゃぶ）
	14:20	施設見学および体験（滑玉洞窟）
	17:00	ホストファミリーと対面、ホームステイ先へ
7/29 (土)	終日	ホストファミリーと自由行動
7/30 (日)		ホストファミリーと自由行動
	17:00	ホームステイ終了、忠州市内ホテルチェックイン
	18:00	さよならパーティー
7/31 (月)	7:50	ホテルチェックアウト、ソウルへ出発
	10:20	施設見学（ソウル南山タワー）
	12:00	昼食（ビビンバ、韓国式とんかつ）
	13:30	金浦空港到着（チェックイン等手続き）
	15:45	金浦空港出発
	18:20	羽田空港到着（入国手続き）
	19:05	羽田空港出発
	20:25	武蔵野市役所到着、帰国式
8/31 (木)	18:00～20:00	事後研修
9/8 (金)	19:00～20:00	報告会

5 日間の旅の記録

1 日目 7 月 27 日 (木)

7:40 武蔵野市役所集合、出発式

出発式のあいさつ。

8:00 武蔵野市役所出発

バスの中ではペアの人と話している人も
いれば、韓国語を勉強している人も
いました。



9:10 羽田空港到着

12:05 離陸



14:25 金浦空港到着

ついに韓国に到着！
忠州市役所の方たちに出迎えられました。

15:40 金浦空港出発、忠州市内へ

途中サービスエリアにも寄りました。



18:00 夕食 茸入りのプルコギ

食器が金属なところや、キムチがでてくるところなどで韓国に來ていると実感できました。

19:45 ホテルチェックイン、宿泊

2日目 7月28日(金)

10:00 表敬訪問、歓迎式（忠州市役所 中央塔会議室）

一人一人が韓国語で自己紹介をしました。ここでホストファミリーと対面し、さよならパーティーまで一緒にいました。



11:00 韓国伝統武術 テッキョン体験（忠州市テッキョン院）

忠州では世界的な武術の大会も
開かれるということで
とても貴重な経験ができました！



12:45 昼食 韓国式しゃぶしゃぶ

14:20 滑玉洞窟

17:00 ホストファミリーとの対面 及び引継ぎ

団員たちは各ホストファミリーの家へ。



3日目 7月29日(土)

<団員たちは各ホームステイ先で自由行動>

4日目 7月30日(日)

<団員たちは各ホームステイ先で自由行動>

おいしいものを食べたり、チョコリ体験をしたり、カラオケに行ったり、思い思いに過ごしました。言語が違っても、一生懸命コミュニケーションをとろうとしました。ホストファミリーとの絆が深まりました。

17:00 ホテルチェックイン

18:00 送別会(さよならパーティー)

さよならパーティーではみんなが今まで練習してきた、K-pop、J-pop、ソーラン節を披露しました。

最後はいきものがかりの「YELL」を歌い、

さよならパーティーが締めくくられました。

ホストファミリーとの別れに涙を見せる団員もいました。



21:00 宿泊

何となく懐かしい二日ぶりのホテルでした。

ホームステイから帰ってきたということを実感、、、

夜は、ホームステイの疲れでぐっすりと眠ることができました。

5日目 7月31日(月)

7:50 忠州からソウルへ

10:20 ソウル施設見学

バスを降り、ソウルタワーの麓まではゴンドラに乗って行きました。

展望室まで、エレベーターで一気に昇りました。

見晴らしはサイコー！！

ここで土産を買う団員も多かったようです。

12:00 昼食

韓国最後の食事はビビンバ、韓国式とんかつでした。

15:45 金浦空港出発

夜ごはんは機内食でした。

たくさん楽しい経験をありがとう！

カムサハムニダ！！



18:20 羽田空港到着

20:25 帰国式

最後はみんなで記念撮影。団員の保護者の皆様、市役所の職員の方々が、横断幕をもって出迎えました。日本に帰ってきたことを実感しました。



✧ ホームステイ先での思い出 ✧ (中 2 ・ 女子)

私は、韓国の研修に行く前日、市役所から電話がかかってきました。ホームステイ先の家庭がわたしを受け入れなくなってしまったという電話でした。そこで、急遽一家族で二人の受け入れを実施することになりました。私は、いきなりの変更に、韓国についてからも、ホームステイの不安でいっぱいでした。ヨウンナと会ったのは、二日目でした。最初は、お互い恥ずかしがっていて、なかなか話ができませんでしたが、テッキョン体験が終わるころには、もう普通に会話ができるようになっていました。ヨウンナの家族はお父さん、お母さん、お姉さん、お兄さん、ヨウンナの五人でした。みんな優しく私たちに接してくれホームステイでの不安が吹き飛びホームステイへの期待でいっぱいになりました。その夜は、夕食として、ホームステイ先で、キンパ作り体験をしました。自分で作ったキンパは、最高においしかったです。日本の海苔巻きとはなかに入れる具が全然違い、本当においしいのかなあ、、と思いましたが、具が合わさるととてもおいしく、びっくりしました。また、のりは韓国のりを使うのかと思っていましたが、日本ののりと同じものを使っており、びっくりしました。そして次に、ヨウンナがおいしいかき氷屋さんに案内してくれました。そして抹茶かき氷を食べました。ヨウンナが韓国でも抹茶はよく食べるよ、と説明してくれました。

二日目は、ホストファミリーと韓国のお寺に行きました。日本とは色彩の感覚が全然違い、日本のお寺は地味なイメージがありますが、韓国のお寺は、派手で、赤、青、緑などの色を多く取り入れていました。また、チョゴリ体験もしました。ヨウンナが着方を教えてくれました。着物とは着方が全然違い、驚きました。私は黄色のチョゴリにしました。みんなとても似合っており、思わず写真をたくさん取ってしまいました。そして、お昼ご飯として韓国式そばを食べました。しかし、私は辛すぎて食べられませんでした。ホストファミリーが代わりの餃子を買ってきてくれ、やさしさに感動しました。その夕方、みんなでローラースケートにでかけました。人生初のローラースケートだったので、最初は全くすべれず、転んでばかりでしたが、ホストファミリーに教えてもらい、うまくすべれるようになりました。

そして、三日目は、アートボックスや、おすすめのかわいい髪留め屋さんでお土産をたくさん買いました。ヨウンナやヨウンナのお姉さんと悩みながら友達にあげるお土産を買うのはとても楽しかったです。そのあとは、家の近くのお店で、ハットグとバナナウユを買って食べました。ハットグは、中にチーズとソーセージが入っており、言葉にできないほどおいしかったです。チーズがとても伸びて、まわりの衣ととてもよく合いました。車でお別れパーティーを行う会場へ向かう間は、とても悲しくて、もっとホストファミリーと色々な遊びや体験をしたかったなと思いました。お別れパーティーは今まで練習してきたソーラン節や、TWICEのTTを披露することができてうれしかったです。締めめのいきものがかりのYELLを歌う時や、今までの感謝の気持ちを表した手紙を渡すときは、とても

かなしくて、まだホームステイが終わってほしくないという気持ちになりました。

私はこの青少年交流団での初めてのホームステイの経験を一生忘れないと思います。このホストファミリーに優しくしてもらった経験を忘れないで、今度は自分が優しくする側になりたいです。ここまで支えてくれた、ホストファミリー、市役所の方々、団員のみんな、本当にありがとうございました。そしてこの経験を活かし、世界をもっと広い視野で見ていきたいと思っています。



韓国の交通と日本の交通との比較

<このテーマを選んだ理由>

韓国の交通と日本の交通は似ているようで違っていきそうなので、韓国と日本の交通の比較をしてみたいと思ったからです。また、事前研修の時に、韓国は、左ハンドルであるということを聞いたため、他にも韓国の交通には、日本と違うところがあるのではないかと考えたからです。

<行く前に調べていたこと・考えていたこと>

- ・ 右側走行（日本は左側走行）
- ・ 左ハンドル（日本は右ハンドル）
- ・ 交通 IC カード「T-money」を使う（日本は Suica か PASMO）
- ・ バスの運転が荒い（日本は荒くない）

<現地に行って分かったこと>

～日本と違うところ～

- ・ 車の車種としては、起亜自動車、ヒュンダイなどが主で、なかにはトヨタなどの日本車もありました。日本はトヨタ、スバル、ホンダなどが多いです。
- ・ 駐車場のついているレストランがとて多かったです。日本は、駐車場がついているレストランは少ないです。
- ・ 日本では、路上に車を停めることはしてはいけませんが、韓国では、かなりの車が路上に車を停めています。また、韓国の道路は、とても道幅が広く、駐車するスペースもたくさんありました。
- ・ 通学は、日本はバスや電車、徒歩を使いますが、韓国では、バスや地下鉄もよく使いますが、親の車で送り迎えしてもらうことも多いそうです。実際、ヨウンナの学校にはたくさんの駐車スペースがありました。
- ・ 家族でお出かけするときは、日本では、電車やバスも多く利用しますが、韓国はほとんど車で移動するそうです。確かにホームステイ中も、移動はすべて車でした。
- ・ 韓国の信号は、赤、青のほかに、青の信号の残り時間が表示されます。残り時間が無くなる前に渡りきらないと、赤になった瞬間に道路の車が速いスピードで来るため、危険です。日本は、歩行者が渡りきるまで車が待ってくれるため、韓国のスピードに驚きました。

～同じところ～

- ・ 通勤は、日本と同じように主に地下鉄を使用するそうです。韓国でも、日本と同じように通勤ラッシュがあるそうです。ソウルなどの大都市では、ものすごく混雑するそ

うです。しかし、私たちが行った忠州市では、電車はないため、主にバスを使用するそうです。

- ・バスの乗車方法は日本と同じ前乗り後ろ降りです。
- ・電車は、IC カードを使う方法と、切符で入る方法のどちらもあります。

<結論>

韓国と日本の交通は、似ているところもありますが、駐車スペースや車種などで大きく違うところもあります。しかし、実際に韓国に行ってみると、その違いはさほど気になりませんでした。交通はやはり国によって違うものですが、私は国ごとの交通の違いを受け入れていきたいです。今後も韓国だけでなく、他の国々と積極的に関わっていきたいです。



✧ 心躍る5日間 ✧ (高1・女子)

私がこの青少年交流団に参加したきっかけは、中学時代に身につけた日本に関する知識をどこかで発揮できないかと考えていたからです。合格通知が来たときは、とてもうれしかったのですが、不安もありました。しかし、事前研修を行っていくうちに薄れていきました。

7月27日。ついに出発する日がやってきました。バスに乗っていて羽田空港の近くで飛行機が見えたとき、韓国に行くことを実感しました。

韓国の金浦空港に着いて、まず思ったのは、においが違うということです。少し不安になったのですが、ホドゥクアジャや夜ご飯のプルコギなど食べ物がとてもおいしく、不安が楽しみへと変わりました。

翌日は、ほぼ1日、ホストシスターと過ごしました。私のホストシスターは、ほかの子よりも情報が少なく、行く前にメールをしても日本語が全然できないと何度も言っていたので、ちゃんと話せるかととても不安でした。いざ会ってみると日本語が上手で、わからなくても、英語と翻訳機で乗り切れたので一気に安心しました。その日、洞窟に行き、ボートを漕ぎました。その時、2人でボートが壁にぶつからないように協力していくうちに、打ち解けることができました。洞窟は予想以上に寒かったです。

ホストファミリーの家に着き、プレゼントを渡したのですが、ある失敗に気が付いてしまいました。猫ちゃんへのプレゼントを用意し忘れていたのです！そんなこともあってか、最後まで猫ちゃんが私に威嚇していました（笑）。ホストファザーは車の中や家で、日本語で話してくれ、韓国の歴史や家の周りのことなどいろいろ知りました。前回の団員でホストファザーとあまり話せなかったと書いている人が多かったのですが、私はホストシスターの次にホストファザーと話したぐらい、たくさん話しました。ホストマザーとは、夜ご飯を作りました。しかし、1日の疲れからか、あまり食べられませんでした。それをホストマザーは気が付いたのか、1時間くらい休みなさいといわれ、部屋で休んでしまいました。今では、もっと話せばよかったかなと思っています。

その後はとても元気になり、ソルビンを食べに行きました。マンゴー味は私、韓国伝統の味はホストシスターのチョイスで注文しましたが、韓国伝統の味のほうが私の好みでした。この研修中に食べたものはすべて韓国伝統のものの方がおいしかったと思います。チャレンジは大事！

ドライブをし、中央塔史跡公園という愛の不時着のロケ地に行きました。車の中では、愛の不時着の話から、韓国ドラマや日本のドラマの話で、家族5人で盛り上がりました。イルミネーションがとてもきれいで、夜に来てよかったと思いました。

ホームステイ2日目になりました。7時半に起きるよと言われていたのに、安心しすぎたのか、寝すぎてしまいました。ホストシスターとオンニに起こしてもらって、自分でもびっくりしました。

その日、特に思い出に残っているのは、景福宮（ソウル）に行ったことです。ハンボクを着て回っていたので、ドラマで見ていたものを自分ででき、すごくうれしかったです。宮殿外では、先生たちが人権のデモをしている声が聞こえました。昔にタイムスリップしたようなのかな空間に、デモの音が聞こえ、どちらも非日常的なもので、ただただ驚き、不思議な気持ちで過ごしていました。

その後、韓国式プリクラ、人生4コマを撮り、忠州市に戻るバスターミナルに向かいました。ソウルのバスターミナルでお姉さんとはお別れになることを知らされ、突然で、感謝の言葉をあまり伝えられませんでした。もっと話しておけばよかったと後悔しました。

忠州駅に着いた後、家族とサムギョプサルのお店に行きました。サムギョプサルをうまく食べるのは大変で、家族に野菜にまいてもらったものを食べました。この時、ホストファミリーにもっとしゃべって！と言われ、オンニの突然の別れがあり後悔した私はかなり話すようになりました。ホストシスターの中学校の卒業アルバムと家族アルバム、テレビを一緒に見て、夜を楽しみました。卒業アルバムにはコスプレページというものがあり、とてもうらやましかったです。夜はあと1日しか過ごせないことに気が付き、ホストファミリーへ手紙を書きながら泣いてしまいました。

ホームステイ3日目。最終日となり、ホストファミリーからプレゼントをもらいました。我慢していた涙が出そうで危なかったです。その日は、ホストマザーの歯医者クリニックに行きました。春歯科という名前のクリニックだったので、春夏秋冬を韓国語でホストファミリーに教えてもらいました。お別れの時までずっと発音を練習していて、ありがとうの次に言った言葉だと思います（笑）。

昼食後、カラオケ（ノレバン）に行き、計18曲ぐらい歌いました。お別れするという寂しさを忘れられ、仲も一段と深まり、行ってよかったなと思いました。



ホテルのお別れ会ではホストファミリーとの思い出がよみがえって、大号泣してしまいました。バナナウをホストファミリーのお家に忘れてしまい、最後のプレゼントとして買ってもらったことは忘れられません。

この研修で、現地の料理にチャレンジすることと話そうとする意欲が大切だと気付きました。いろいろなことを感じ、好奇心旺盛だった幼いころに戻れた気分になった5日間でした。

韓国と日本の視覚的な違い

〈このテーマを選んだ理由〉

日本の伝統や町の特徴について中学生のころ調べていて、この知識を生かしたい！という思いで今回の研修に参加しました。日常生活からだけでなく、ロゴやパッケージのデザインからも韓国と日本の感覚の違いや共通点がわかるのではないかなと思いました。

〈調査したこと〉

〈テーマ〉

- ① 行く前に考えていたこと
- ② 現地でわかったこと

の順番で、説明していきます。

〈交通関係〉



- ① ・運転がかなり粗いらしい
- ② ・車の大きさは人それぞれ。日本は赤や青といった目立つカラーの車が一定数あるが、韓国は大体の車が黒か白、もしくはそれに似た色だった。目立つカラーの車は、大体トラックやタクシーなど宣伝も兼ねているものだった。

・運転が荒いのは本当！信号の色もあまり関係なしに、スピードがすごく速い！高速バスに乗っているときは、ジェットコースターに乗っている気分だった。

焦りがちの国と聞いていたが、焦っているからスピードを出してしまうのかも？でこぼこしている、曲がる道が思ったよりも多かった。

・忠州市内での移動は車が主流。車がないと生活できないらしい。

日本と違って、自転車を持っているお家が少なそうだった。（自転車乗れない人も、多いらしいです。）

・道路の太さや標識はアメリカスタイルだった。

〈会社のロゴ〉

- ① ・日本と一緒にだと思っていた。見つけようと思えば見つかるけれど、あまり周りの景観を崩さないイメージだった。
- ② ・自然、周りの景観に関係ない色のロゴが多い。大手コンビニのCUのロゴは紫色！

日本ではあまり見ないレインボーカラー、グラデーションを取り入れている会社も多い気がした。

- ・店名、お店の周りの看板の文字数が日本よりも多かった。
- ・建物の一番上に会社のロゴを置く点では一緒だった。

〈商品のパッケージ〉

- ① ・一昔前の日本のパッケージに似ているものをよくテレビで見っていたので、日本に似ている感じなのかと思った。
 - ② ・ラーメン、のり以外は、おいしそうな最近のパッケージという感じ。
逆に日本のより新しく、何の商品かわかりやすい感じがした。
ラーメン、のりは昔ながらのイメージを大切にしているものが多かった。
- ・各会社の商品にマスコットキャラクターがいる割合が高い！
丸い形の優しそうなイメージのキャラクターが多め。
辛い商品もキャラクターのおかげで辛くなさそうに見えがち。

〈ご飯について〉

- ① ・キムチが毎食出る。全体的に赤っぽいと思っていた。
・毎回キムチを含めなにかしら韓国料理を食べていそう。
- ② ・パンも普通に出る。
・野菜もお肉に巻くために出て、全体的にカラフル。
キムチはよく出るだけで、毎食出るわけではない。



〈結果〉

韓国人の性格はやさしくて、それがキャラクターのデザインにも反映されていました。
車の速さも、早く早く！という韓国の人の性格、感覚が表れているような気がしました。



✧ 交流団に参加して ✧ (高2・女子)

まず初めにこの交流団事業で私は素晴らしい経験をさせていただきました。

私は小学校2年生の時に見た「トンイ」という史劇から韓国に関心を持つようになり、テコンドーや韓国語を習ったり、韓国の文化にたくさん触れてきました。もっと韓国の文化に触れたいという思いで旅行をしたこともあったのですが、旅行ではソウル以外の都市に行く機会もあまりなく、韓国語や文化に触れる機会がなかなかありませんでした。

ちょうどこのように思っていた時に、この交流団事業が行われるという話が耳に入り、私が求めてたのはこれだ！ととても嬉しく思ったことを覚えています。

観光客がたくさんいるソウルではなく、行ったことのない忠州市という都市に行けると聞き、合格がわかった時からワクワクが止まりませんでした。

そして数回にわたる事前学習を終え、待ちに待った4泊5日の韓国留学が始まりました。

初日はまず飛行機に乗り、その後バスで忠州市へ移動しました。そしてホテルに到着し、その日はそこで自由行動となりました。私はルームメイトと一緒に韓国の街を少し歩いてみました。コンビニに行ったりしたのですが、そこでようやく韓国に来たんだという実感が湧き、ワクワクしたのを覚えています。

そして次の日には忠州市役所に行きステイシスターと初めて対面しました。忠州 C という忠州市のキャラクターも温かく出迎えてくれ、楽しい時間となりました。

式を終えたあと、シスターとバスで隣の席に座りいざ会話をしてみると日本語がとても上手で本当に驚きました。私も負けてはいられないという思いで日本語で話しかけられたら韓国語で話すというような形式で話していました。韓国の学校のことや日本の学校のこと、文化の違いを見つけてはどうしてだろうねという風に考えたり、たくさん話をしました。今までも韓国の友達と話したりすることがあるにはあったのですが、対面でたくさん話をするのができ、今までにはない経験をすることができました。

次にテッキョンという韓国の伝統的な武道を体験しに行きました。私が習っていたテコンドーとは少し異なり、新たな経験ができたことが大変嬉しかったです。

お昼ご飯はしゃぶしゃぶを食べたのですが、日本とは違いライスペーパーが机の上に常に置いてあり、それに具材を包んで食べるそうです。また、しゃぶしゃぶをし終わった後は汁を全て除いてご飯を入れ、とても美味しく食べました。

次に忠州市で有名だという洞窟に行きました。洞窟では石油の精製方法や機械の名前などを教えてもらいました。洞窟での自由時間は長かったのでその後カフェに行き、他のシスターの子達とも自分の学校についての話をたくさんしました。写真を見せあったりしてたくさん話しとても楽しかったです。

家に帰るとファミリーがとても温かく迎え入れてくれました。お母さんが作ってくれたご飯は韓国で祝日に食べる料理らしく、とても美味しかったです。

その日の夜は韓国の街並みをお散歩しながらたくさんさんの文化の違いについての話をしました。また、韓国語で分からないところがあったらシスターに聞き、シスターが日本語で分からないところがあったら教えてあげたりと、お互いにとってすごくいい学習になりました。



次の日はシスターの学校に連れて行ってもらいました。日本とは教室の作りが大きく異なっており、韓国ドラマと全く同じでとても興奮しました。

その後シスターの友達と合流して韓国の JK がどのように遊ぶかを教えてくれました。ゲームセンターやカラオケ、カフェで話したり、日本の JK と同じようではありましたが、カラオケの感じなどが違ったりところどころ違うところを感じることができ、とてもいい経験になりました。たくさん話せてとても良かったです。

夜はファミリーとバーベキューをしました。日本とはルールが全く違い一発逆転があったりする UNO をファミリーでやったり、楽しい夜を過ごしました。

次の日には私がずっと行きたかった本屋さんに連れていってもらい、韓国の青少年が読んでいるという本をお勧めしてもらいました。韓国人の間でリアルタイムに人気がある本はネットで調べてもなかなか分からないものなのですごく嬉しかったです。とても面白く、今順調に読み進めています。

そしてとうとうお別れの時間になってしまいました。4泊5日という短い期間とは考えられないほどたくさんの人に出会い、たくさんのことを学びました。旅行では得られない貴重な経験をすることができたのはさまざまな方々の協力のおかげです。感謝の気持ちを忘れず、この経験を将来に活かしていきたいと思います。

日韓文化の違いについて

私の研修テーマは日韓文化の違いについてです。

日韓文化の違いを明らかにし、最終的には戦争などでイメージがよくない人もいる日韓関係を良化するためにはどうすればいいのかを考えました。

<このテーマを選んだ理由>

このテーマを選んだ理由は主に2つあります。1つ目の理由は **K-POP** やメイクなどの韓流ブームの流入に伴い、韓国が身近になってきた日本で、韓国は日本と同じような文化であると思っている人が多いように思ったからです。欧米と日本の文化の違いはよくメディアなどにも取り上げられて理解している人が多いように思いますが、韓国文化は知られていないことが多いのではないかと思います。また、日本国内である北海道から沖縄は距離が約 2200km あるのに対して日本から韓国はたった 950km ほどです。日本国内での文化にはさほど違いがないのに対して韓国と日本の文化には違いが少なからずあります。そこに疑問を抱き、研修テーマにしました。

2つ目の理由は戦争などを背景として「韓国が嫌いだ」と言う人を見かけたりすることがあるからです。文化の違いを読み解くことでそれぞれの文化の良さに気づき、韓国をより身近に感じることができないのではないかと考えました。そしてこれからの日韓関係を作っていく若者である私達がどのように改善していけるかを考えたいと思ったからです。



<行く前に調べたこと、考えていたこと>

日本の入学式は4月に行われるが、韓国は3月であること、部活をしている人が韓国では少ないこと、日本に比べて韓国は上下関係が厳しいことなどの相違点を調べました。

また、韓国人は日本のアニメや漫画に興味がある人がとても多いことがわかりました。

<実際に触れた韓国の文化>

現地で日韓の文化の違いについてホストシスターとたくさん話をしました。

いくつかにかけて紹介しようと思います。

・学校文化について

今回は実際にシスターに学校に連れていってもらいました。

韓国は事前学習で学んだ通り受験大国で、スヌンという試験に遅れそうな学生を警察が送り届けるというほど試験が大事なのだそうです。そのため放課後には塾に行く生徒以外は夜間自律学習という時間があり、夜の10時まで学校で勉強しなくてはならないそうです。

日本も相当な受験大国であると思っていましたが、韓国は部活をしている暇がないほど切り詰めて勉強しないといけないそうです。それがすごく大変だと言っていました。また、授業で寝ないために立って勉強する机があり、寝そうになった人はそこで授業を受けるそうです。日本には全くない文化なので驚きました。

また、韓国の学校の中に日本のアニメのポスターが貼られていたりしたのが嬉しかったです。

・喫煙文化について

韓国では飲食店や公共スペースでの喫煙は違法で、違反した場合には店に 170 万ウォン、喫煙者には 10 万ウォンの罰金が課せられるそうです。

なので喫煙してる人をほぼ見かけず、過ごしやすいなと感じました。

・会計文化

韓国では現金を持ち歩いている人が本当に少なく、私が現金で会計をしようとする現金で会計する人がなかなかいないので現金を探してきますと言われました。

タクシーやバスに乗って移動したりしたのですがその時も当然カードで決済をしていました。日本でもカード決済が主流になりつつありますが、現金を持っていない人はなかなかいないと思います。

そこに文化の違いを感じました。

<結論>

このように日韓の文化の違いを明らかにすることで、日本だけの良さ、韓国だけの良さが際立つと思います。実際に私が韓国に行って日本の文化の話をしたら日本に住みたいと言ってくれました。

こうして互いの国の文化の良さを発信して日韓関係をより良くしていけたらいいなと思います。現在日本では韓流ブームが起きており、韓国ではアニメブームが起きています。

そのようにしてお互いの文化を共有して尊重し合い、徐々に理解しあっていくことが日韓関係を良くしていくことに繋がるのではないかと思います。

若者である私達が自国の文化を発信していくことで、両国の良さがわかります。

現在は SNS が発達しており、さまざまなことを発信できるので SNS を用いて積極的に日本文化を発信していきたいと思います。



✧ 交流団に参加した感想 ✧ (高2・女子)

小さい頃から大好きだった念願の韓国に行くことができ、5日間とても楽しくて、かけがえのない時間でした。緊張していたけれど、ホストファミリーの皆さんがとても温かく迎えて下さって嬉しかったです。ホームステイ期間はあっという間に過ぎ去ってしまって、さよならパーティーの後には、ルームメイトの子と一緒に泣いてしまいました。最後にバタバタしてしまい、ホストファミリーにしっかりと挨拶出来なかった事がとても悔しいです。交流団に参加出来て、本当に良かったです。

ホームステイ 1 日目は、バスを降りてはじめての挨拶の後に、そのままスーパーに行き、私の好きな食べ物を沢山買ってくれました。お家に帰って、日本からのお土産を渡しました。すごく喜んでくれて嬉しかったです。その後お風呂に入りました。日本とはお風呂の仕様が違い、操作が難しかったです。その後、スーパーで買ってくれたアイスを食べながら韓国ドラマをみんなで見ました。ドラマの後はカルグクスを食べに行きました。私は辛い食べ物が好きで、キムチを沢山食べ、ホストファミリーの皆さんに驚かれました。お店を出た後、「愛の不時着」の撮影場所に使われていた公園で散歩しました。

2 日目、朝起きるとテーブルの上にすごく豪華な料理が並んでいてびっくりしました。5種類のキムチがメインで、辛さが違いました。他にはサラダや漬物などを白米と一緒に食べました。朝からすごくお腹いっぱいでした。その後支度をして出発しました。家の近くにあるカフェで、チョコレートスムージーを飲んで、また少しドライブをして湖を見て、サービスエリアで桃とチーズスティックを食べました。また車で移動しながらキャラメルサンドを食べました。その後ケーブルカーに乗って、忠州の山や湖の景色を眺めました。すごく綺麗で迫力がありました。その日はパン屋さんでスコーンを食べたり、私のリクエストでトッポギを食べたりして、家ではアイスを食べながら韓国ドラマを見ました。

3 日目、ホストマザーが髪を結んでくれてキャンプ場に出かけました。途中でお肉を買うために寄ったスーパーで私に洋服を選んでプレゼントしてくれました。ご飯を食べる場所は混んでいて、食べる場所がなかったところ、たまたま車をとめた場所の近くに住む通りがかりのお婆さんの家に入らせてもらい、サムギョプサルを食べました。初めて食べたのでレタスにお肉を包むのが難しかったです。優しいお婆さんにお礼を言って、さよならパーティーの会場に向かいました。

この3日間のホームステイの中で、夜遅くにホストファミリーと公園で散歩をしたのが特に印象に残っています。日本と空気が違って、新鮮で思い出に残りました。困ったことは、たまに韓国語が伝わらなかったり、分からなかったりしました。翻訳機も使いましたが、Wi-Fi がない場所で困りました。

そして初めて外国に行き友達が出来て、連絡が取れていることがすごく嬉しいです。これからも連絡を続けていき、ホストファミリーとはずっと繋がってみたいです。

私は元々K-POPが好きだったので、韓国が好きでしたが、韓国人は日本に悪いイメージを持っているのではないかと考えていました。ですがみんなとても優しく、普通のお店

でも日本語をすごく上手に話せている人が多くてびっくりしました。その点で、韓国の印象はさらに良くなりました。

この経験で外国の文化を生で知ることの楽しさを感じたのもっと知りたいと思いました。引き続き海外に目を向けていきたいです。



韓国の生活

<このテーマを選んだ理由>

以前から韓国にとっても興味を持っていたので、まずは韓国の基本のマナーを知りたいと思って選びました。

<行く前に調べたこと、考えたこと>

また日本より電子マネー、電子決済の文化が進んでいることをニュースで知りました。学歴社会だということも同様にテレビや韓国のインフルエンサーから知りました。また、この青少年交流団に参加することが決まってから、食事のマナーを調べたところ、お皿を持ち上げない、十分足りたという意味で少し残すなどの情報を学びました。

嬉しいことに事前研修で韓国の文化や習慣を細かく学ぶことができます。

たくさんある中で私が印象に残っていることを何個か発表します。

<現地に行って分かったこと>

現地に行って、分かったことは5つあります。

1 FreeWi-Fiが多い

私がホストファミリーと出かけたレストラン、食堂では必ず **FreeWi-Fi** がありました。また、バスの中にもあって、乗客のほぼ全員が繋げてスマホを見ていました。スーパーや公園にもあったので、韓国はITも発達していることを実感しました。そこで調べたところ、韓国はIT先進国であり193ヶ国中、電子政府ランキング第2位となっていました。また韓国にはPCバンという日本でいうネットカフェのようなお店も多く、忠州市にも沢山あったため、PCを触るのが好きな人も多いのかなと思いました。

2 電子マネー（カード、スマホアプリ）

私のホストファミリーは、マート（スーパー）ではスマホのアプリで決済をしていて、カフェや食堂では電子マネーカードを使っていました。電子マネーカードは3枚ほど持っていて、ホストマザーがホストシスターに1枚渡して好きに買い物をしているそうです。そういった意味では、電子決済が日本よりも日常に浸透しているように感じられました。

3 マートの会計

場所によってはセルフレジもあるかも知れませんが、店員さんとの対面式での会計がほとんどでした。武蔵野市のスーパーはセルフレジが増えてきているので、これは意外でした。また、韓国も日本と同じようにエコバックの文化が進んでいますが、エコバックに入りきらなかったとき、ダンボールに詰めて持って帰っていました。レジの近くにダンボ

ール置き場があって、色々な大きさのダンボールが無料でもらえました。私の近所のスーパーにもダンボールが置いてありますが、このような使い方をしたことが無かったので、興味深かったです。

4 レストランのフリーサービス

レストランでは、無料で何かを提供しているお店が多かったです。韓国式しゃぶしゃぶ屋さんでは、4種類のアイス、カルグクスという韓国式の麺料理屋さんではコーヒーが置いてありました。日本でもフリーサービスのあるレストランはありますが、韓国の方が頻度が高く、バラエティーに富んでいて、サービスの良さに驚きました。

5 食事のマナー

旅行雑誌やネットなどの情報では、韓国ではお皿を持ち上げない、食事が十分に足りたという意味で少し残すなどのマナーがあるそうですが、ホストファミリーは日本と同じように、こぼさないようにお皿を持って食べて、残さず食べていました。家庭や地域によって、また違うのかも知れません。

<結論>

私が韓国で見た事は、総じてフリーのサービスが豊かでした。それは見知らぬ私とホストファミリーを家に招き入れてくれた通りがかりのお婆さんと何か通じているように感じます。韓国の何気ない日常に触れ、優しさに触れたように感じます。

この交流団で学んだことをこれからの生活に活かし、自分の世界を広げるチャンスに繋がっていきたいです。



✧ 交流団に参加した感想 ✧ (中1・女子)

私が青少年交流団に参加した理由は、韓国の文化や言葉に興味があったからです。元々、小学生の時から韓国アイドルが好きで様々な動画を見ていました。アイドルや韓国ドラマ、バラエティー番組を見ていくうちにそこで出てくる韓国語を字幕がなくても理解できるようになりたいと思いました。そこで、この交流団の話聞き、参加して韓国語や韓国の普段の生活、食について学びたいと思いました。こうして私にとって初めての海外が韓国となりました。関わりがなかった人達と海外に行くのは少し不安があったけれど事前研修をしていくうちに不安は安心感へと変わりました。

1日目、私たちは不安と興奮のなか武蔵野市を出発！羽田空港での自由時間を友達と回り買い物をしたり、みんなで写真を撮ったりしていくと少し気持ちも落ち着きました。ただ、飛行機に乗る直前のあのドキドキ感を今でも覚えています。

金浦空港に着くとまだ日本語で書いてあるものがあり、すぐには韓国にいることを実感できませんでした。バスでホテルに向かうと見えるものすべてが韓国語になりやっと「ここは韓国なんだ！」と実感しました。その日は興奮してなかなか寝られませんでした。

2日目、ホストファミリーの人達と対面の日です。ヘインと会い、テッキョン体験や洞窟に行きました。ヘインはテッキョンを習っているので、技がとても上手でした。言語が通じずスマホの通訳機を使ってばかり会話していたので、もっと韓国語を勉強してくればよかったと後悔しました。夕方、ホストファミリーが迎えに来てくれ車で家に行きました。家の中は日本とよく似ていました。その後、外出に出かけると段々と不安感や韓国語を理解できない孤独感が襲ってきて少ししか食べることが出来ず、ホストマザーが「おなか痛かったら言ってね」と声をかけてくれ少し安心することが出来ました。夕飯を食べた後ヘインと二人で写真を撮りに行ったり、買い物に出かけたりしました。夜は私の好きな韓国ドラマを二人で見ながら会話をしていくうちにどんどん不安感がなくなり、夜は安心して眠れました。

3日目、朝リビングに行くとキンパやラーメン、キムチなどの韓国料理が並んでいて、本場の味を体験することが出来ました。その日は韓国民俗村に行き、韓国の歴史や文化を学びました。帰りに日本でいうコストコのようなショッピングモールに行き夕飯を買いました。その時にホストファザーがおすすめのお土産として買ってくれました。韓国はマスクをしていない人がほとんどでスーパーには試食コーナーもあり、コロナを気にしている人が日本より少ない気がしました。買ってきたものを家で食べ、ホストファミリーと通訳機を使いながら、家族の話や習い事の話、血液型の話など楽しく会話することが出来ました。

4日目、朝ごはんは、韓国式チャーハンと韓国式みそ汁を食べました。みそ汁は味噌が違うのか、辛く癖になる味でした。それから中央塔公園に行きました。そこでは韓服を着る体験ができ、写真を撮るのが上手なヘインは沢山写真を撮ってくれました。韓服は、よくドラマで見ていたので憧れの服を着ることができてすごく嬉しかった

です。昼食にチーズとんかつを食べました。すごく美味しくて今でもまた食べたいと思っています。それからおやつに大きいメロンのかき氷を食べたり、市場に行ったりしてあっという間に時間が過ぎました。集合場所のホテルに行き団員達に会ったとき、ここ2、3日韓国語しか耳に入っていなかったのが久しぶりに聞いた日本語をなかなか聞き取れませんでした。



歓送式が終わり、ホテルの玄関でホストファミリーと別れるときに韓国語で書いた手紙を渡しました。すごく喜んでくれて私は涙が出そうになりました。言葉が通じないので、目だけで最後の別れをしました。感謝を伝えたいのに伝えられない、言葉が通じないことがこんなに辛いことだとは思いませんでした。このホームステイの2泊3日はすごく沢山の事を学べたと思います。

5日目、韓国とも団員達ともお別れの日です。朝早起きをして団員の4人と一緒に温泉に入りました。すごく熱いお湯に入ったりサウナに入ったりして韓国の温泉を楽しみました。ソウルタワーに行き、最後の食事はビビンバ。そして、金浦空港に行き日本へ出発！改めてこの4泊5日はすごく刺激のあるものだったと感じます。日本での研修から様々な人に会い、韓国の文化に触れ、一生忘れない思い出を作ることができました。これからも忠州市青少年交流団で経験したことが意味のあるものになるように将来に生かせたらと思います。

韓国の食について

<このテーマを選んだ理由>

私は食べることが好きで、特に韓国の料理だとトッポギやサムギョプサルが好きです。

辛い食べ物が多いイメージの韓国、日本から距離は近いけれど、歴史や国民性などの影響で「遠い国」と言われている国との『食』の違いを調べてみたいと思いました。

<行く前に考えていたこと>

- 1 韓国の料理は大体、辛い
- 2 毎日キムチを食べる
- 3 食事マナーは日本と同じ



<現地に行って分かったこと>

1. 辛さも幅が広く、少し辛いものから激辛までさまざま料理があります。

ホームステイ先でもレストランでも辛い物が多く、韓国の人は日常から辛い物をよく食べているということが分かりました。私のホームステイ先で食べたみそ汁は日本と見た目が同じでしたが、味は少し違って辛さがありました。

特に驚いたのが、朝食から辛いラーメンが出たことです。

全ての食べ物が辛いというわけではなく、辛くない物もありました。チーズをたっぷりと使った料理も多く、とても私には食べやすく美味しかったです。

2. ホームステイ先の家庭料理では毎回と言っていいほどキムチが出ました。そのキムチの見た目は、日本のスーパーによく売っているキムチよりかなり大きかったです。ニラやニンジンなどが入っているのではなく、白菜だけのキムチでした。食べてみるとすごく辛く感じたけれど、ホストファミリーの人達は辛さを感じないかのように沢山食べていました。私は沢山食べられなかったけれど、辛さの中に旨味を感じてとても美味しいキムチでした。

3. 食事のとり方には日本と少し違いがありました。箸は金属でできていて重さがあります。熱い物を食べる時は箸が熱くなるので注意をしたほうがいいです！

汚れている箸を直接机に置いたり、片膝を立てて椅子に座ったり、口を開け音をたてながら物を食べるなど、日本との食事マナーの違いを感じました。

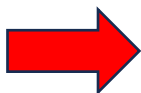
似ているようで違うマナーがあることは国民性の違いが出ていて面白いなと思いました。

<感想>

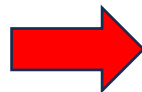
キムチなどの辛い物をよく食べるなどは想像していたけれど、毎食キムチを食べていることに驚きました。

お土産におすすめしてもらった袋ラーメンを帰国してから食べましたが、私が知っている袋ラーメンではありませんでした。袋の文字を一生懸命解読したところ、鍋に入れて作るラーメンではなく、乾麺を袋の中で粉碎して食べるスナック菓子でした。とても斬新で楽しく癖になる味でした。

今回のホームステイで韓国の食の違いがわかり、楽しく美味しい時間でした。



袋を開けずに



たたいて



✧ 忠州市での素敵な思い出 ✧ (高3・女子)

今回の韓国派遣事業は私にとって初めての韓国、そして初めてのホームステイだったのでとても緊張しました。私はこの5日間で韓国の文化を直接肌で感じ、多くの発見や学びを得ることができました。小学生の頃から、k-pop や韓国の文化に興味があり、また現地の韓国人と直接韓国語で話してみたいという思いから、この研修に参加しました。

1日目

武蔵野市役所で出発式を行い、待ちに待った韓国研修がスタートしました。空港までのバスでは楽しみと緊張でずっとソワソワしていました。約2時間半のフライトを終え、金浦空港では忠州市役所の職員の方々が温かく迎えて下さいました。その後はホテルに着き、みんなでコンビニにアイスやお菓子を買に行きました。よく韓国ドラマで出てくるバナナウユというバナナジュースを発見し、とてもテンションが上がりました。

2日目

最初に忠州市役所で歓迎会を行いました。武蔵野市の団員とそれぞれのペアとの初顔合わせで緊張しました。私のホストシスターのスアは同い年でとても日本語が上手で、フレンドリーな子だったのですぐに仲良くなれました。スアと友達の団員とそのペアの子と4人で日本語と韓国語を混ぜて楽しくお喋りしました。今日会ったとは思えないほど午後にはみんなと打ち解けていて、私にとって初めての韓国人の友達が沢山できたので嬉しかったです。解散後、スアのお父さんの車に乗り、お母さんと弟のソッチョンと合流しジャージャー麵を食べに行きました。味付けは辛すぎずマイルドで食べやすかったです。ご両親は「よく来たね。」と笑顔で迎え入れてくれました。私が日本から持ってきたお土産のお菓子や緑茶を渡すととても喜んでくれました。スアにはサンリオのお揃いのキーホルダーをあげました。一生懸命準備してよかったです。

3日目

この日は一日スアと忠州市で遊びました。最初に、色んな写真館に連れて行ってもらい、韓国のプリクラを撮りました。日本のよりもナチュラルに盛れるのでおすすめです！私の行きたかった OLIVE YOUNG というコスメショップに行き、欲しかったコスメを買えたので大満足でした。トッポギを食べたり、ケーキを食べたりしながら忠州市についてやお互いの生活についてお話ししました。スアは私にバスに乗る時やレジの会計の時に一人でやってみてとサポートしてくれました。スアに任せっきりでなく、自分から行動することが成長に繋がると思いました。家に帰宅すると、スアの幼馴染のユンニョンが遊びに来ていました。ユンニョンも日本語を勉強していたので私に会いたいと言って来てくれました。ユンニョンは日本のアニメが大好きだそうでその影響で関西弁が上手でした(笑)。夕食後、みんな忠州市の有名な観光名所の七層石塔に行きました。ライトアップがとても綺麗でホストファミリーと一緒に沢山写真を撮りました。



4 日目

ホームステイ最終日はケーブルカーに乗り、韓国最大規模の「忠州湖」を一望できる飛鳳山展望台に行きました。ケーブルカーは想像以上に高く、スピードも速かったです。展望台に着くと、目の前には絶景が広がっていました。天気もよく晴れて、大きな湖と山々がよく見えました。しかし、この日はとても暑かったので長居はせず、休憩室でマンゴーアイスを食べました。ケーブルカーに乗った時に撮ったホストファミリーとの記念写真は私の宝物です。帰りにロッテマートに寄りました。私はそこで、日本の家族や友達へのお土産としてカップラーメンや韓国のり、お菓子を沢山買いました。一つ失敗したことはこの時、スーツケースに入るかどうかを考えずに沢山買ってしまったので後で苦労しました(汗)。夜には送別会が行われました。2 日目に会った友達とも再会し、みんなでバイキングを楽しみました。私は k-pop メドレーダンスを踊りました。緊張していて下しか見れなかったのですが、ホストファミリーのみんなが私の動画を撮りながら笑いかけてくれるのをみて本当の家族のように感じて嬉しかったです。楽しい時間はあっという間に過ぎ、お別れの時間が来てしまいました。スアは別れる時にお手紙をくれました。その手紙は日本語と、韓国語の両方で書かれていました。スアはひらがなや漢字も書けてとても綺麗な字でした。その手紙から日本語を話せるようになりたいという強い思いが伝わってきました。私もさらに韓国語を勉強してまた必ずスアに会いに来ようと思いました。

5 日目

充実した 4 日間を過ごし、ついに最終日となりました。ホテルを出発し、Nソウルタワーに行きました。恋のパワースポットとして有名で観光客が沢山いました。ソウルの街並みを一望でき、忠州の景色とはまた違った魅力がありました。お昼はビビンバを食べ、金浦空港に向かいました。空港でスーツケースの重さを測ってみたら重量制限 23kg に対しなんと 22.5kg もありました。ギリギリセーフでしたが、次からは買い物するときにあまり重いものは買わないようにしようと思いました。飛行機は疲れていたので爆睡し、気づいたら日本に到着していました。私は閉会式の担当だったので保護者の皆さんと市長の前で挨拶をし、私の素敵な夏のイベントが終了しました。

初めてのことで行前には不安でした。しかし、韓国の方はとても優しく私たちを温かく受け入れてくれました。私は今回の研修で積極的に行動する大切さを学びました。間違っているかもしれないけれど私は韓国語で沢山話しかけました。気になること、わからないことは遠慮せずになんでも聞きました。すると、スアや家族はいつも優しく教えてくれました。自分の知らない世界に飛び込むことは怖いと思います。ですが、勇気を持って一歩踏み出せば自分の新たな可能性が広がると思います。私もこの研修に思い切って申し込み、団員として素晴らしい経験が出来たことを嬉しく思います。今回の経験を今後の人生にも活かしていきたいと思います。武蔵野市役所職員の方々をはじめ、研修に携わって下さった全ての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

韓国食文化

<テーマを選んだ理由>

私は辛い食べ物が好きで、日本でもよく韓国料理屋さんに行くことが多いのですが、そこで食べる韓国料理と実際に現地の人々の食事に違いはあるのか、どんな食事をしているのか興味を持ったので「食」というテーマにしました。

<行く前に調べたこと>

- ・主食は日本と同様、粘り気のある米が中心で魚や肉、野菜などを加えたお粥もよく食べます。もち米とうるち米の両方を用いて餅も作られます。また、小麦や蕎麦などの穀物を材料とする麺類もよく食べられます。
- ・地域ごとに地形や気候の特色を反映した郷土料理があります。
- ・韓国料理では調味料として唐辛子、生姜、ニンニク、すりごまをよく使います。
- ・食事の際は箸とスプーンが必ずセットで出てきます。日本ではスプーンは料理によって使い分けるが、韓国では日常的に使います。
- ・韓国では「韓定食」と呼ばれる沢山の種類の料理を2人以上で味わう豪華な料理があります。「家庭式韓定食」は肉・魚料理などのメイン料理1品に加えて、キムチやチヂミなどの素朴なおかずで構成されています。
- ・高麗人参や参鶏湯は古代中国の医学を基に独自に発展した「韓医学」という伝統医学の薬膳料理として、よく食べられています。

<現地に行って分かったこと>

- ・韓国は発酵食品が豊富で代表例でもあるキムチは毎日食べました。キムチは乳酸菌が含まれており、腸内環境を整え健康や美容効果も期待できます。他にも味噌（テンジャン）はスープやチゲには欠かせないもので、私はホストマザーからお味噌汁を頂きました。味は日本のお味噌汁と近くて美味しかったです。
- ・朝ごはんにはキンパを一緒に作って食べました。キンパの具材はほうれん草やにんじんのナムル、コチュジャンで味付けした牛肉のイメージが強かったのですが、実際にはソーセージやたくあん、カニカマなど日本の韓国料理屋では見ないような具材で作っていたので驚きました。キンパの具材はその家庭によって様々で、バリエーション豊かな事が分かりました。
- ・食器は金属製の器や箸、スプーンを使います。日本では箸やスプーンは自分に一番近い手前に横に並べます。しかし、韓国では食事の右側に縦に並べます。私がいつものように横に並べていたら、お母さんに日本では横に並べるのねと言われ、確かに韓国では縦に並べるという違いに気づきました。
- ・韓国の麺は長くて弾力があり食べ応えがあるので、噛みきれない時はハサミで麺を切って食べます。他にもキムチやサムギョプサルもハサミで切るのです。お店に行くとテー

ルにほとんど必ずハサミが置いてありました。一説には、食べ残しの使い回しをしていないことを証明する意味もあるそうです。

- ・サムギョプサルやタッカルビを食べた後はシメとして炒飯（ポックンパツ）をよく食べます。少し残った肉や具材とご飯を鉄板の上で混ぜ合わせます。この炒飯がとても美味しくて一度の食事で色々な味が楽しめて嬉しかったです。

<結論>

韓国の食文化は日本の食文化と共通点もあり、日本人にも食べやすい料理が多いと思いました。日本でも韓国料理を食べていたので詳しいつもりでいましたが、やはり現地に行くと新たな発見やホームステイしたからこそ知ったこともあり、韓国料理の奥深さを知りました。これからも「食」の観点から韓国だけでなく様々な国にも注目し、そこから歴史や異文化の理解に繋がっていきたいと思いました。



✧ 忠州市での思い出 ✧ (中 2・男子)

私が大韓民国忠州市への青少年交流団に参加しようと思ったきっかけは、父が中学生の時に市で国際交流の機会があったけれど、結局申しこまなかった事を後悔しているということを知った事、幼少の頃に私はタイとシンガポールに住んでいたが、帰国後はコロナもあり一度も海外へ行っていなかったので行ってみたい気持ちで応募しました。

私はこの交流団での経験を通して記憶に残っていることが二つあります。一つ目はホストファミリーとの生活です。私のホストファミリーは私の両親と同じ年のお父さんお母さんと私より一つ上と一つ下の兄弟でした。出会った時からとても親切に出迎えてくれて、ホームステイという初めての体験に緊張していた僕の不安を取っ払ってくれました。初日は韓国の料理店に連れて行ってもらいその特徴、、食べ方の作法だったり、食材について説明してくれました。その後はカラオケに行きみんなで韓国の歌 *way back home*、日本の歌さくらんぼを歌いました。夜はみんなでマリオカートをしました。その時に兄弟喧嘩をしていて、私も妹とよく喧嘩をするので韓国も日本と変わらないんだなということを感じとても安心しました。二日目の朝はホストファミリーのチュンギョンさんとウンギョンさんとお父さんと一緒にバドミントンとバレーボールをしました。私はバドミントン部に入っていて同じ部活の人としかやったことがなかったので新鮮でした。その後は事前アンケートで私がキンパとホットク作りを希望していたので、お母さんが用意して実践してくれました。本場のキンパはキムチを巻いて食べることが多く、日本のものより辛かったです。ホットクは手作りキットを使ったので日本のホットケーキのように簡単に作ることが出来ました。お母さんがお土産にキットをくれたので日本でも家族に作ろうと思います。三日目は朝からキリスト教の教会に行きました。初体験でした。最後に韓国で一番歴史があるお寺に行きました。日本のお寺と比べて色彩が鮮やかで綺麗でした。

二つ目はホストブラザーの友達と会ったことです。初めて会ったのは二日目の夕方と一緒に焼き肉を食べた時です。その時に韓国ではどんな日本アニメが流行っているのか、日本の文化で知っていることは何なのかを話しました。彼らは日本のアニメを日本語で見たり、日本語を話すことが出来る子もいて驚きました。その後は自分を含めた六人でバスケットをしました。私は学校で習ってきた英語の知識をフル活用して、積極的にみんなと話をするようにしました。また全員優しくたくさん話しかけてくれました。積極的にコミュニケーションを取ることで、異なる国の同じ世代の人達とも仲良く出来たという経験は僕に自信をもたらしてくれたと共に、これからの国際交流においても役に立つと思います。ただ自分の英語力についても課題を感じ、日本に戻ったらもっと英語を勉強しなければと思いました。韓国の中学生は語学力が高く英語をうまく話せていました。

最後に今回青少年交流団に参加したことは一生忘れられないとても貴重な経験になりました。これからはこの経験を活かして国際的な広い視野を持って生活をしていきたいと思っています。団長をはじめ、武蔵野市職員の皆様、このような機会をありがとうございました。

韓国の若い人に J-POP が受け入れられているのかについて

<このテーマを選んだ理由>

日本と韓国は隣り合った国のため、お互いの文化的な影響が強くあると思っています。私は中学校で放送委員をしています。同級生の子に給食の時間に K-POP を流して欲しいという依頼をよく受けます。ですが普段、日本にいと韓国に浸透している日本文化の話は聞きません。この海外派遣を通して日本の文化、特にポップカルチャーの J-POP が韓国の同じ世代の人達に受け入れられているのか、流行しているならそれはどのような理由で有名になっているのかを調べたいと思いました。

<行く前に調べていたこと、考えていたこと>

日本の中高生はファッションに興味があります。K-POP が流行っている理由はアイドルの歌やダンスそして先進的なファッションが理由だと思います。私が持つ韓国のイメージは韓流ドラマ・映画であり、韓国の人はドラマ・小説・アニメ等の物語が好きなのではないかと思っていました。そして日本のアニメを通して日本文化が入っているのではないかと思います。派遣事業に参加する前には Spotify という音楽配信サービスの韓国でのヒットチャートを調べました。トップ 50 の内、ほとんどが K-POP でしたが、imase そして YOASOBI が入っていました。特に YOASOBI は推しの子というアニメの主題歌になっている<アイドル>が 2 位にチャートに入っていました。また TikTok で話題になっている imase の<NightDancer>も上位に入っていました。

<現地に行って分かったこと>

ホームステイをする中で日本文化を感じる事があるかを考えていました。ホストブラザーはバスケットボールをやっていて、部屋にはスラムダンクが全巻そろっていました。また他に好きな日本の漫画やアニメを聞いたらワンピースや最近では推しの子が好きと言っていて、日本アニメが深く韓国の同世代の人達にも影響を与えていることがわかりました。その中、ホストファミリーやその友達と交流する際に好きな J-POP はあるかや何故好きなのか・知っているのかを聞き、韓国で人気になった日本の曲には三種類の異なった要因があるとわかりました。

① YouTube を通して

日本の有名な曲が YouTube を見ていたらおすすめに出てきます。そのおすすめを通して J-POP に触れ、好きになっていくというものです。例えばあいみょんの<マリーゴールド>や米津玄師の<Lemon>などです。あいみょんはアコースティックギターの音とあいみょんの声がかわいいということで韓国で広く受け入れられているという話をホストファミリーから聞きました。

② TikTok を通して

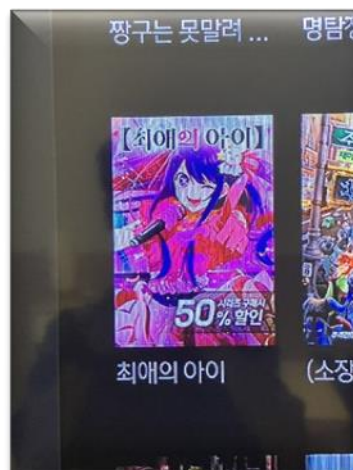
韓国の中高生にも TikTok は大人気で大きな影響力があります。日本のインフルエンサーが J-POP に合わせて踊る TikTok を見た K-POP アイドルが同じ J-POP の曲を使い投稿することがあります。K-POP アイドルは影響力がある為、一気に使用されている曲も有名になるんだそうです。例えば imase の <NightDancer> や 新しい学校のリーダーズの<オトナブルー>は TikTok を通して有名になりました。imase は歌が受け入れられているだけでなく、韓国の番組にも出ています。

③ アニメを通して

ホストブラザーもそうでしたが、韓国では日本のアニメは高い人気があります。今は最新アニメが日本で放送された一時間後には字幕付きで放送されます。ホストファミリーから話を聞いたところ、アニメは日本語字幕付きで見る事がほとんどでした。アニメ主題歌も日本語のままで放送されます。その為、それぞれのアニメファンの中で J-POP の主題歌が流行します。ホストブラザーとその友達も推しの子の主題歌で使われている YOASOBI の<アイドル>が好きと言っていました。Spotify で 2 位になっていた<アイドル>の人気の背景を直接韓国の中学生から聞くことが出来ました。

<結論と感想>

韓国では当然自国の K-POP が主流ですが、その中でも流行る J-POP があることやその理由も分かりました。その中でもアニメを通した流行は日本独自のものだと思います。アニメの影響力はとても大きく、文化を伝える上でとても大事な役割をしているということを今回の調査を通して痛感しました。また今回の調査を通して今まで以上に K-POP に触れてホストブラザーやその友達からオススメの K-POP を紹介して貰いました。それらを聞き、もっと K-POP や韓国のことを好きになりたいと思いました。



✧ 研修感想 ✧ (高1・女子)

今回の研修に参加しようと思ったきっかけは小学生のころから韓国の文化について興味があり、今年の冬から韓国語を自分で学んでいたの、学んできた韓国語を実際に使ってみる良い機会であり、韓国の文化についてより深く知ることができると考えたことだ。また、外国に行ったことがなかったので、新しい経験をできる良い機会だと考えた。5日間という短い時間だったが、本当に多くの経験をして、多くの学びを得られた。

1日目は初めての海外旅行だったので、とても緊張した。飛行機に乗ったり、バスに乗ったり、移動が多かったのであつという間に1日が終わってしまった。

2日目はホストファミリーと一緒にテッキョン体験をして、ファロク洞窟に行った。テッキョン体験はしたことがなかったが、考えていたよりも難しくなく、楽しんで体験できた。ファロク洞窟はとても涼しく、外が暑かったので快適に過ごせた。また、ボートにも乗ったが、自分で漕いだことがなかったの、うまく進めなかったが、二人で楽しく過ごすことができた。

3日目は体調を崩し、ホストファミリーと一緒に過ごすことができず、残念だったが、忠州市の職員の方々や、武蔵野市の職員の方々がサポートしてくださったおかげで、無事に過ごすことができた。

4日目は朝からホストファミリーと合流し、行動することができた。木工体験をしに行き、その後カフェでスイカジュースを買ってもらった。その日もホストファミリーは何度も体調を心配してくれて本当にありがたかった。さよならパーティーでは準備してきた出し物もできて、楽しい時間を過ごせた。

5日目はソウルに行き、南山タワーにのぼった。昼食にはビビンパを食べた。その後はあつという間に空港に到着し、日本に帰ってきた。

今回の研修を通して学んだことのうち、最も印象的なことは、韓国の人のあたたかさだ。今回の研修中に体調を崩してしまったが、その時に忠州市の職員の方もホストファミリーも本当に気遣ってくださったので無事に体調も回復して日本に帰ることができた。また、ホストファミリーとの食事では食べたいものを好きなだけ食べたらいいと言ってくれ、食べ物が口に合うかを何度も確認してくれた。どれもとてもおいしく、ホストファミリーと一緒に食卓を囲んで食べるのはとても楽しかった。言語の壁などから、関わることに尻込みしてしまうことも多いと思うが、韓国の人も日本人という壁を隔てず、関わっていったらと思う。



日韓の日常生活、マナーの違い

<このテーマを選んだ理由>

日本と韓国は、地理的に考えればとても近い位置にある。その一方で日本と韓国は気候、食文化など、様々な点で異なっている部分があり、言語も異なる。例えば、気候は韓国の方が冬の寒さが厳しかったり、食文化では、辛い食べ物をよく食べたりなど、違いはさまざまである。実際に韓国に住んでいる人と交流することからその違いを感じたいと思った。そこから互いの文化の理解に繋がりたいと考えた。日本にいたときに調べられて、知ることができるだけでなく、日常の些細な部分を知ることが、互いの理解には必要なことなのではないかと考えたため、このテーマにした。

<行く前に考えていたこと>

食事について

- ・辛い食べ物が多く、辛い物を好む人も多いのではないかな
- ・夜食を頻繁に食べる
- ・食べる量が多い
- ・品数が多い

気候

- ・日本と比べて蒸し暑い
- ・気温はあまり違いがない

マナー

- ・年上の人に対する礼儀が日本よりも厳しい

→家族においてもそのようなのではないかな

→必ず年上の人には敬語を使う

トイレ

- ・トイレトペーパーを流せないトイレが多い

<現地に行って分かったこと>

食事

- ・ほとんど毎回の食事でキムチが出されるが、そんなにたくさん食べない。
- ・キムチ以外にも自由に食べられる副菜がいくつか食卓に出される。
- ・スプーンや箸は金属製のもので重い。
- ・夜食に食べる量が多い

→もともと、ホストファミリーとは夜食にチキンを注文する予定だった

→お土産でもっていったお菓子を一度の夜食ですべて食べていた。

- ・飲み物に炭酸ジュースが出されることが多かった。
- ・たくさんの量を勧められた。

気候

- ・日本の天気と夏はほとんど違いがない。

→そのためかセミの鳴き声も日本と同様にたくさん聞こえた。

マナー

- ・家族との話し方は日本とあまり変わらない雰囲気だった。
- ・日本とあまり常識的な部分は違いがない

トイレ

- ・日本のトイレと似て、トイレットペーパーも流せるところが多かったが、流せないところもあった。
- ・鍵をひねってかけるタイプではなく、ピンを押すタイプだった。
- ・浴室と分かれていなかった。

その他

- ・車の運転は片手運転の人が多く、日本と比べて荒いように感じた。
- ・路上に広げて果物を売っている人がところどころいた。
- ・1 + 1 で売っているものもセールしているものも多かった。
- ・通りを歩いているだけで何軒もカフェがあった。
- ・浴室には浴槽がなく、狭いシャワールームだった。

<結論>

日本と比較して違う部分も多かった一方で日本と似た部分も多くあることが分かり、韓国を身近に感じる事ができた。特に気候が同じだったので日本と雰囲気が似ているように感じた。コミュニケーションの取り方も日本と似ていたと感じたので、韓国の人との交流をこれからも積極的にしていけたらいいと思う。日本と韓国で言語の壁や地理的な距離はあるが、互いに歩み寄り、理解する姿勢を持ちたい。

✧ 忠州市での2泊3日のホームステイ ✧ (中2・女子)

7月24日、夏休み前半。私は初の韓国へ旅にでました。

旅と言っても、4泊5日の短期間です。しかし私にとっては一人で行く初の海外だったので泊まる日数関係なく、不安・緊張・期待の気持ちがありました。

4泊5日の内、2泊3日がホームステイの期間です。普段日本では体験できない、異文化の体験が沢山できました。

私がホストシスターのヨンウンと初めて会ったのは、忠州市役所の会議室です。私が会議室に入った時ヨンウンは既にいたので、私は緊張して前が見れず、下を向いて歩いてしまいました。初対面の時、ヨンウンはニコニコ笑っていて「笑顔が可愛い子」というのが第一印象でした。

初めて韓国語で自己紹介した時は緊張で声が震えてしまったのですが、ヨンウンがうなずきながら聞いてくれていたので、最後まで韓国語で言うことが出来ました。

顔合わせが終わった後、忠州市の伝統的な武術であり世界無形文化遺産でもある、テッキョンの体験に行き、実際に技を習いました。

私はこの体験プログラムからヨンウンと行動を共にするようになり、テッキョン体験プログラムの後は一緒にお昼の韓国式しゃぶしゃぶを食べました。

韓国式しゃぶしゃぶはお肉がテーブルの上に用意されていて、野菜などを自分たちで取る方式で、日本のバイキングと似ていて和気あいあいな雰囲気でした。

お昼ご飯を食べた後は滑玉洞窟（ファロクドングル）に行き、自由行動でした。

この自由行動で私はヨンウンと沢山お喋りをしたのですが、お互い韓国語や日本語をあまりしゃべれなかったのが、韓国ドラマなどでよく聞き取れる「イゴ」（これ）という言葉を使ったり英単語を使ったりしながら、お互いに日本語と韓国語を教え合いました。

滑玉洞窟での自由行動が終わりバスでテッキョン体験をした場所まで戻ってくると、オンマ（お母さん）やオッパ（お兄さん）と初対面です。

初めて会ったオンマとオッパは、ヨンウンと似ていてとても優しい顔をしていました。実際、本当にとても優しい方々でした。アッパ（お父さん）とは家で会いましたが、これまたとても面白い人で私に沢山話しかけてくれました。

ホームステイ1日目の夜ご飯に食べたキンパ（韓国式海苔巻き）はホームステイの中でも強く印象に残っています。このキンパは自分たちで作った海苔巻きで、具は韓国料理にもよく入っているソゴギ（牛肉）を沢山入れて作りました。

オンマもキンパを作っていたのですが巻くのがとても上手くて、さすがだなと思いました。それもそのはず、ヨンウンの家は食堂を営んでいたのが、オンマはとても料理が上手で、プルコギなども絶品でした。夜ご飯を食べた後は近所のスイーツ屋さんに行って、オッパに韓国風かき氷をごちそうしてもらいました。

韓国のかき氷は日本のかき氷よりも粒が細かくてふわふわとしていてとても美味しかったです。家に帰った後は寝る前に、ヨンウンが韓国語で書いてある美女と野獣の本を見せ

てくれて、韓国語を教えてくださいました。

二日目はオンニ（お姉ちゃん）も来て、オンマとオンニとヨンウン達とマーケットに行きました。マーケットは日本で言う「イトーヨーカドー」のようなもので、食品売り場はコストコのミニ版のような感じでした。日本と比べると一つ一つの商品が大きくて、一番目についたのは、水が売っているコーナーです。韓国は、水道の水が飲めないなので水の売っているコーナーが大きく日本よりも豊富な種類の水が売っていました。

マーケットではオンニが三種類の菓菓を買ってくれたのですが、菓菓は作り手によって味が異なる伝統菓子で帰国して食べ比べをしたところ、本当にそれぞれ味が異なっていました。中でも私はドーナツのようにカラッと揚げてあるタイプが好みでした。

オンニとヨンウンとはローラースケートもしました。ローラースケート場は売店があったりしてちょっとしたカフェのような感じでした。夜に近所の雑貨屋さんにお土産を買いに行ったのですが、ヨンウンが韓国語で書かれた名前シールを作ってくれました。

三日目、最後の日は朝からヨンウンとお互いの学校生活の様子や、韓国の学生の様子など私が気になっていた事をお喋りして、ヨンウンの学校にも行きました。韓国の中学校は日本の中学校よりも校舎が広く、食堂などがありました。他にもオンニとヨンウン達とお土産を買いに行き、髪飾りが売っているお店に行きました。日本よりも種類が豊富で韓国では髪をまとめるバレッタや大きいリボンが流行していることが分かりました。

また、お会計をする時に現金よりもカード決済が主流となっていて、プリクラなどもカード決済の台が多かったのは日本よりも発展していると感じました。

送別会のためにホテルに戻る途中では、それまであまり話せてなかったアッパとも話すことが出来ました。アッパが何と、日本の歌手、近藤真彦の「ギンギラギンにさりげなく」を知っていたので、一緒に歌ったりしてとても楽しかったです。そして、楽しかったと思う気持ちと同時に、もっと早くから積極的に話せばよかったという後悔の気持ちもわきあがってきました。

送別会の最後では寂しい気持ちからウルッとしましたが、皆の前で泣くのは少し恥ずかしかったので我慢していました。これでお別れなのだから話さなきゃと思う気持ちとは裏腹に寂しさから口数が少なくなってしまっていました。

ですが、ホテルのロビーで最後に「カムサハムニダ・ット マンナヨ」（有難うございました・また会いましょう）と言えたのでほっとしました。

このホームステイで異文化を体験し、日本の豊かさをより一層感じる事が出来ました。また、実際に言語の違う人たちと話してみて、もっと現地の言葉で話したいという気持ちが高まり、海外へ行くときには後悔がないように語学の勉強をしっかりとしていきたいと思いました。自分が学ぶ他に日本の文化や武蔵野の事などもホストファミリーへ伝える事が出来たと思います。

将来私は海外へ留学したいと思っているので、今回の派遣で学び、感じたことをこれからの学校生活や将来に上手く活かしていけるようにしたいです。

✎ 韓国と日本の学生（中学・高校）の違い ✎

<このテーマを選んだ理由>

自分自身が日本の学校で授業・部活・給食・委員会など、生活を送っている中で韓国の学生はどのような生活を送っているのか気になったから。

韓国の学生の生活を知ること、日本と韓国の生活文化の違いを知る事が出来るのではないかと思ったから。

<考えていた事>

同じアジアの国であり、日本の近くにある国だから学生の生活に違いはあまりないのではないかと考えていた。また、韓流ドラマを見ていると韓国の学生は受験が大変な様子だったから学習塾に行っている人が多いのではないかと考えていた。

<現地に行って分かった違い>

	日本	韓国
登下校	中学生・高校生共に 歩き・自転車・バス・電車が多い。	ほとんどの人が歩き、少数で自転車 を利用する人がいる。 高校生はタクシーやバス、親の車で 登下校する人が多い。
給食	教室で給食やお弁当	食堂で給食
放課後	部活や習い事、塾などがある。部活 などがない日は友達と家で遊んだり、 買い物に行ったりする。塾は学校が 終わって 2～3 時間後などが多いから 放課後は比較的時間がある。	大体の学生が、学校が終わる時間に 塾のバスが学校の前に来て塾へ行く。 時間がある日は友達とカラオケ やカフェ、お互いの家で遊ぶことが ある。
中学受験	受験する人としらない人で分かれる。 義務教育のため全員が進学する。	中学受験はない。 義務教育のため全員が進学する。
高校受験	筆記試験、面接、作文などがある。 進学率は高いが、年々1%ほど進学率 が減っている。	筆記試験はなく、中学の成績を主に 要する。成績ごとに地域の高校に振り 分けられる。高校への進学率は高く 公立・私立共に学費は無償化が進 んでいる。

<結論・考察>

放課後に学校に塾のバスが来ることなどから韓国は学歴社会という文化が根強く残っていることがわかった。

韓国では高校受験がないことでより大学受験の倍率が上がり、学生が沢山勉強をするため、より学歴社会になっていくのではないのかと思った。また、中学の成績次第で、高校が決まるとなれば、中学での学習を真面目にやらないと後から自分に返ってくるという場合があるから、中学時代から勉強をする癖がつきよりテストなども難しくなり勉強をする人が増え学歴社会と言われているのではないかとも思った。

これらの結論や考察から新たに、日本や韓国以外の世界の学生の生活はどうなっているのだろう、という疑問もできた。この、どうなっているのだろう、知りたいという気持ちを、今の私の夢である海外へ留学したいという夢を叶えるための学習や、日々の学校生活でも持ち続けたいと思う。

수정일: 2023-07-14 11:56:36

제2학년 시간표 월(17일)

교시	1반	2반	3반	4반	5반	6반
1(08:50)	영어 김소	정보 김익	과학 김영	수학 강도	국어 피아	기가 박형
2(09:45)	스포츠 김미	스포츠 손지	스포츠 김익	스포츠 김형	스포츠 박은	스포츠 김성
3(10:40)	과학 김영	한문 김현	수학 강도	국어 피아	기가 박형	역사 반진
4(11:35)	한문 김현	수학 강도	체육 장원	과학 김영	역사 반진	영어 김소
5(13:30)	기가 박형	국어 피아	한문 김현	영어 김소	체육 장원	과학 박은
6(14:25)						
7(15:20)						
8(16:15)						

✧ 忠州での思い出 ✧ (中 1・男子)

僕はこの青少年交流団派遣事業を通して現地の文化に触れ、とても貴重な経験ができました。また、ホストファミリーの皆さんと過ごした 2 泊 3 日は普通の観光旅行では体験することができないであろう韓国を知ることができました。

まず韓国での一つ目の気づきは言語がわからなくても「なんとかなる」ということです。ホームステイ初日にホストファミリーの皆さんに「一緒に韓国料理を作ろう」と言われました。でも僕は韓国語がまったくと言っていいほど分かりません。なので、最初は何をどう作るか分からない状況でしたが、ジェスチャーや英語などが意外に通用することが分かり、ホストファミリーと少しずつ意思疎通をしながら、結果的に料理を作ることができました。料理が美味しくできたということはもちろん嬉しかったのですが、僕はそれよりも異国の地で言語もわからずに料理を作ることができたという事実に喜びを覚えました。

二つ目の気づきは、僕が予想していたよりも反日的な思想を持っている人が少なかったことです。韓国では歴史の授業の一環で、過去の日本が「悪」であると教育されている人が多いため日本を毛嫌いする韓国人が多いと思っていました。しかし、実際に韓国に行ってみると、それらはほとんど感じられませんでした。ホストファミリーの皆さんをはじめ、忠州市職員の方、テッキョン体験の時に教えてくれた人などは皆さん親切で反日的な感情などは全くないように思えました。

一番の思い出は、団員や市の職員の方と過ごした日々です。最初は中学一年生で、男子が少ないということもあり不安が大きくありましたが、歓送会の時に先輩が踊りや歌などを教えてくれ、とても嬉しく、数少ない男子でも肩身が狭いということはありませんでした。また、飛行機の搭乗手続きなどをはじめ市の職員の方たちにサポートいただきスムーズに進めることができ、とても感謝しています。

僕はこの 4 泊 5 日の青少年交流事業を通し、言語が通じない海外の人たちとのコミュニケーションをする難しさを感じました。でもそれは「なんとかなる」ことであり、何とかしてコミュニケーションを取ることによって、異国の人の考え方に触れることができ、自分の視野を広げることができ、自分なりにとても成長できたと思います。この事業を通して海外に深い興味を持ったので次は英語をもっと勉強して英語圏に行ってみたいです。



韓国と日本の家庭の違い

<選んだ理由>

日本と韓国では地理的に近い国なので文化が似ていると考えていたが、ネットなどでは違うと書かれていたためそれが本当なのか、どう違うのか確かめたいから。

<行く前の予想>

日韓では家庭での文化に大差はない

<行ってわかったこと>

1, 食事について

韓国の人は日本に比べ、たくさん食べていると感じた。また、それは僕がホームステイさせていただいた家庭だけでなく、ほかの子もそうっており全体的に多く食べているのだと考えた。また、韓国の食事といったら辛い物だろう。実際に行ってみて韓国はほぼ毎食キムチが出る。そのキムチも日本物のよりも酸味が強く辛いいため食べるのには苦労した。

2, 家に置いてあるものの違い

僕がホームステイした家にはウォーターサーバーがあった。見かけた時は何とも思わなかった。しかし、調べてみると韓国は水道水の塩素濃度が日本よりも高く塩素の匂いが気になる人が多いそうだ。そのため韓国のウォーターサーバー普及率は 60 パーセントを超えているらしく、多くの家庭にあるようだ。

<まとめ>

僕は韓国に行く前は文化の違いはあまりないと思っていた。しかし、実際に行ってみると、細かなところが違ったり、ネットでは書いていない違いもあったりした。この経験をとおしてネットなどで見る表面的な情報にとらわれず、広い視点で物事を見ていきたいと思う。

✧ 忠州市で過ごした四泊五日 ✧ (高3・女子)

私は中学二年生の時に K-POP アイドルを好きになり、その影響で韓国の文化と韓国語に強い興味を持つようになった。好きなアイドルと偶然道ですれ違ったときに、韓国語で直接自分の気持ちを伝えられるようになりたい、なんて絶対にありえない状況を夢見て始めた韓国語は、今では私の一番に誇れる特技となった。

この交流団に応募したのは、生の韓国語に触れて自分の韓国語の実力がどれくらいなのかを知りたい、という理由からだ。韓国語の勉強は四年近くしてきたが、実際に一般の韓国人と話す機会はほとんどなく、自分の韓国語の能力に確信を持てないままだった。去年韓国旅行をした際も、結局使った韓国語はアニョハセヨとカムサハムニダくらいで、あまり韓国語を活かせなかったことが悔しい部分もあった。そこで、ホームステイという旅行では絶対に体験できないようなリアルな生活や環境、そして何より韓国語を自由に使えるところに惹かれ、この交流団に参加した。

韓国での四泊五日はとにかく楽しくて学びの多い五日間だった。忠州市は自然豊かなところで、ゆったりとした心地の良い場所だった。ホームステイ一日目はイエウンの通っている高校を見学した後、延寿洞で夜ご飯にサムギョプサルを食べて観光した後、少しドライブをして公園に連れて行ってもらった。二日目は朝に念願のキンパ作りを一緒にした後、忠州市の歴史博物館に行き、お昼にはマッグクスを食べた。また、おやつにソルビンを食べに行き、イエウンのお友達のヨジョンと一緒に遊覧船に乗ってきれいな夜景を見に行った。中央塔公園に行った後に近くのカフェでマカロンも食べた。三日目はお母さん手作りのチャプチェを食べてからチクトンの山の上にある神社に行き、お昼にはまたカフェで美味しいパンを食べた。そして堤川市のケーブルカーに乗ってタイムカプセルを残してきた。この思い出からわかるように、ホストファミリーには美味しいものを本当にたくさん食べさせてもらい、様々なところにも連れて行ってもらった。ほとんど家にいる時間がないくらい忠州市を堪能し、常におなかで美味しいものでいっぱいのまま過ごした三日間だった。

ホストシスターのイエウンは本当に日本語が上手で、「蛙化現象」や「大和政権」など、何で知っているの？と驚くような日本語もたくさん知っていた。日本語の勉強だけでなく学校の勉強もとても頑張っていて、お茶目だけど努力家で尊敬できる面が沢山ある女の子だった。最初の方はお互いに緊張していたけれど、少しずつ話していくうちに、一緒にネイルをしたりおそろいのネームシールを交換したりするほど仲良くなれた。最終日に残したタイムカプセルにはそれぞれ願いを書いて、いつかここにまた二人で来られるといいね、と話した。

ホストファミリーのお父さんもお母さんも、妹のイエナもみんなとても優しく、韓国の文化やルール、日本と違う所などをたくさん教えてくれた。私が聞き取って理解しやすいように簡単な韓国語を使って説明してくれて、たくさん気にかけてくれて、すごく温かい家庭だった。けれど、韓国語でどうやって言えばいいのかわからなくて、ちゃんと説明したり深く会話をしたりできなかったのがとても悔しかった。

今回のこの派遣で感じたことは二つある。一つは私は韓国語の能力がまだまだ足りないということ。一方的に聞いて理解することはできるけれど、自分の思いを言葉にして伝えることは実際にやってみるととても難しかった。ある程度は会話できるだろう、と思っていた分、言いたいことがあるのにそれを伝えられないもどかしさが大きかったように思う。けれどこの気持ちはホームステイを経験してこそわかるものだと思うので、これからはスピーキングの能力をもっと鍛えて、次会えた時はもっと色々なことが話せるように頑張っていきたい。二つ目は日本と韓国は似ているが、やはり違う国だということ。日本から飛行機で三時間もかからない距離にあって、同じように豊かな自然と文化に囲まれて、沢山おいしい料理がある韓国だが、ドラマでよく見るように上下関係がしっかりしていて、礼儀を日本以上に重んじる国だった。驚いたのは、家族でご飯を食べるときはお父さんが手を付けるまでは食べない、というルールだ。最近では日本のように薄れてきてはいるようだが、やはり儒教文化が根強く、日本よりも目上の人に対するマナーが多くあった。日本の感覚で生活すると、知らないうちに相手に不快な思いをさせてしまうことがあるため、やはり相手の国のことをしっかり学ぶことが大切だと実感した。

ありきたりな言葉かもしれないが、武蔵野市青少年団の団員として過ごしたこの夏は、本当に一生の思い出になった。そして今回の経験を活かして、文化の発展と異文化交流に貢献できる人になりたいと強く思った。

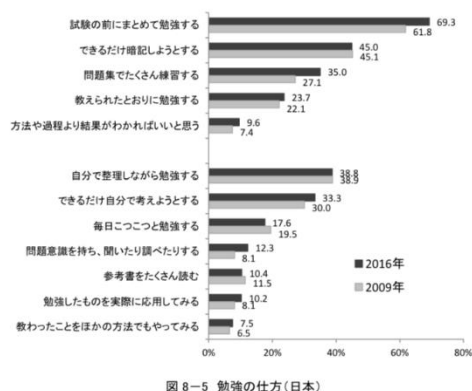
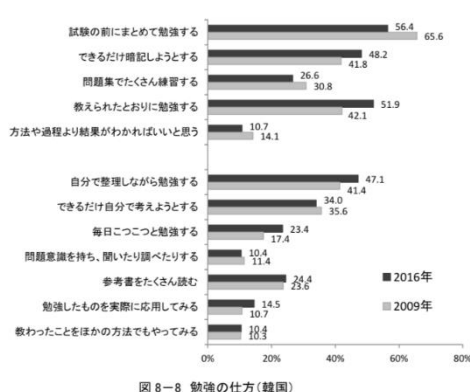


✎ 韓国の学生の実態について ✎

<このテーマを選んだ理由>

韓国の学生について調べようと思ったのは、ホームステイだからこそ学べる韓国の文化だと思ったからだ。実際にどのようにどのくらい勉強をしているか、日本とはどのような違いがあるのか、といったことを、ホストシスターという年の近い韓国人学生と生活するこの機会に調べてみたいと思った。また高校三年生で受験生の今、受験大国と言われる韓国の学生たちがどのように過ごしているかもとても気になった。

<事前に調べたこと>



少し古いデータだが、この表から見ると、そこまで日本と韓国の学生の勉強に対する姿勢は変わらないように見える。ただ、韓国の方が試験より前からコツコツと勉強している人や、参考書を使って自分で整理しながら勉強する人が多いことが分かる。

勉強時間は日本も韓国もあまり変わらず、高校三年生は一日 12 時間以上勉強する人が平均的だった。

<実際に韓国に行って分かったこと>

① 勉強の環境が整えられている

街の様々なところにスタディカフェという勉強ができるカフェがある
 夜間授業（夜中の 10 時過ぎまで授業）がある
 学校の教室ではいつでも自習ができるようになっている
 仲の良い友達と話さないように、自習の時はクラスが分けられる
 眠くならないように立って勉強できる机がクラスにある

② 勉強が習慣づいている

学校が休みの期間でも、教室でたくさんの生徒が自習をしている

スタディノートという一日の勉強計画を書くノートは高校生の多くが持っている
受験生は高校一年生からと考えられていて、計画的に三年間かけて勉強する

○韓国がここまで日本よりも勉強に厳しいのは

① 受験で人生が決まるから

韓国は日本よりも色濃く学歴社会が残っている。大学進学率は80%（日本は50%）にも上り、いい大学に入って高収入を得ることが一番大切だと考えられている。実際に以下の表では、日本よりも韓国では高い地位につき、お金持ちになることが最も重要だと考えている人が多いことが分かる。

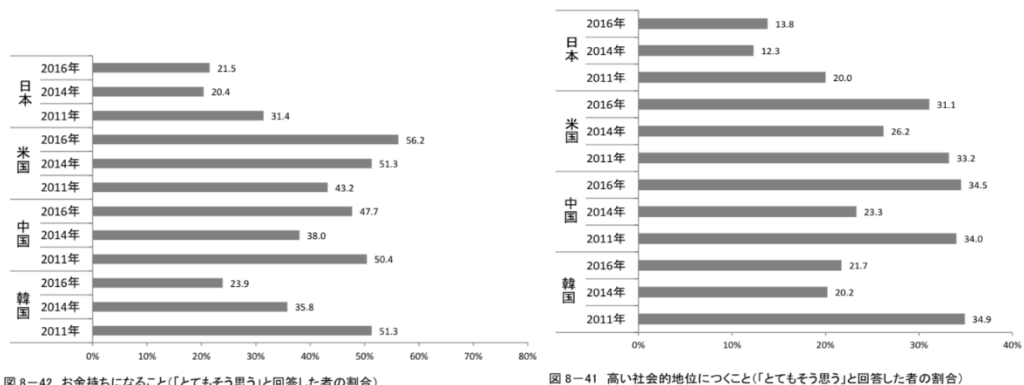


図 8-42 お金持ちになること(「とてもそう思う」と回答した者の割合)

図 8-41 高い社会的地位につくこと(「とてもそう思う」と回答した者の割合)

② 受験が人生で一度しかないから

日本と違って韓国は、小学校・中学校・高校入学時は基本的に受験がない。そのため人生で一度きりの大学受験のために全力を注ぐ。

③ 科举制度があったから

韓国では古くから科举制度が取り入れられていて、これに合格した人は明るい将来が約束されていた。その背景から、現代でも知力を磨いた学者の地位が高く、勉強に対する思い入れが強いとされている。

やはり、日本よりも韓国の方が受験というものに対する気持ちがとても大きいことが分かった。ただそれには歴史的な背景や日本とは違った仕組みの影響が表れているだけで、実際にホストシスターと話してみると、勉強方法や勉強時間はあまり変わらなかった。韓国のように、大学ですべてが決まる、という考えが日本にも浸透してほしいとは正直思わないが、気軽に勉強できる場所が沢山あり、勉強の環境が整えられているのはうらやましいと感じた。ほぼ例外なく多くの人が大学受験を経験し学力と能力を重視している韓国は、日本よりも実力のある人材の多くが相応の地位について活躍していくのだろうなと思った。

団員アンケート結果

1. 忠州市への青少年交流団派遣事業に参加した感想とその理由を教えてください。

とてもよかった	12
よかった	0
あまりよくなかった	0
よくなかった	0

小さい頃から大好きだった念願の韓国に行けて、5日間とても楽しくてかけがえの無い時間でした。緊張していたけど、ホストファミリーの皆さんがとても温かく迎え入れてくださってすごく嬉しかったです。ホームステイ期間はあっという間に過ぎ去ってしまって、さよならパーティのあと、ホテルでペアの子と泣いてしまいました。ドタバタして、ホストファミリーにしっかりと挨拶できなかったのがとても悔しいです(> <)交流団に参加出来て本当に良かったです。

市の職員のサポートが厚かったことや、ホストファミリーの人たちが優しかったから

ホームステイをすることによって韓国の文化に触れるということとても貴重なことを体験できたから。

中学生の頃から k-pop アイドルの影響で韓国語の勉強を始めたが、実際に韓国語で韓国人と会話したことはほとんどなかったため、自分の実力がどのくらいあるのか分からないままだった。以前韓国に旅行した時も結局韓国語はほとんど使わなかったもので、今回の派遣でホームステイや現地の人との交流を通してたくさん韓国語を使う機会があったことがとても嬉しかった。ホームステイも最初はとても緊張して、毎朝リビングに行くのを躊躇っていたが、ホストファミリーもパートナーもみんな優しくて、沢山私のために準備してくれて感動した。

ホストファミリーとのマッチングが良く、韓国語がわからない中でもたくさん話せました。ホストマザーは本当の子供のように私を温かく迎え入れてくれました。前回の団員では、ホストファザーとあまり話せなかったという人が多くいましたが、私が一番しゃべったのはおそらくホストファザーだと思います。3日間という短い期間にもかかわらず、2人とも日本語と英語とジェスチャーで、たくさんの単語を教えてくださいました。自分の気持ちを表すのに困らないほどに韓国語がわかるようになりました。なにより、韓国というあまり知らない地で新たな友達が作れたことが良かったと思っています。普通の観光旅行では食べないであろう食べ物もたくさんおすすめしてくれ、それをすべてチャレンジした自分をすごいと思っています。

普通の旅行では経験できないホームステイを通してローカルな貴重な体験をすることができました。そして武蔵野市の引率団の方々の手厚いサポートにより空港や現地でもスムーズに行動することができました。

2. 役に立った研修内容とその理由を教えてください。

内容	理由
韓国文化	ホームステイをするにあたるマナーが明確にわかったから。 また、韓国文化を事前に知っておいたおかげで、韓国でマナーの違いについて戸惑ったりすることがなかったから。
韓国語	元々知っていた韓国語も少しありましたが、ほぼ研修で習った韓国語の内容で会話しました。ホストファミリーは日本語が全くできない家庭だったのですが、何とか伝わって良かったです???
韓国語の挨拶	使用頻度が高いから
韓国語の挨拶	ホストファミリーと会ったら、まず初めに自己紹介をするので、それが流暢にできると馴染みやすいと思ったから
韓国語の挨拶、簡単な会話、韓国文化、持ち物のアドバイス	韓国語は、簡単な挨拶をいくつか知っているくらいだったから、日常でよく使われるフレーズなど分かりやすく、詳しく教えて下さったからホームステイをした時に役立った。 韓国の文化で、玄関で靴をそろえなくても大丈夫、というの、事前研修で教えてもらっていたので、ホームステイ先で実践出来た。 また、韓国の文化をわかりやすく学べたから良かった。 海外に行くのが久しぶりだったから、スマホの充電器の事や、Wi-Fi のことなど、細かく説明して下さったから準備で困る事がなかった。
韓国文化	実際にホストファミリーと食事をしたり会話をしたりする時に、ある程度文化を知っていたおかげで会話がスムーズだったように思う。ただ、交通や食事のことだけでなく、目上の人との関わり方やルールなどもしっかりと知っておくべきだったと思った。
韓国語の挨拶	ペアの呼び方を事前に教えてくれてたので、最初呼ぶ時に困らなかったし、とても助かりました。 また、基本的なあいさつ、いただきます、ごちそうさまでした、などの言葉も、たくさんホームステイの時に使ったので、ためになりました！
韓国文化	靴を揃えないこと（玄関で靴を揃えることは早く帰りたい又は早く帰れという意味）や食べ物を残してもいいことなどいわれなければ気が付いていなかったと思うから。
韓国文化、韓国語	韓国の日常生活は日本と様々な場面で違いがありましたが、事前に学んでいたから現地でも戸惑うことなく対応出来ました。フレーズなどを覚えていったのでとても役に立ちました。

3. 研修回数の評価とその理由を教えてください。

適当である	10
多すぎる	0
少なすぎる	2

<適当である>

学ぶべきことを全て学べたから。
ちょうど良い回数だと思います。これ以上多かったら、参加出来ないことがあったと思うし、これ以上少なかったら、出し物のクオリティが下がってしまうと思いました。
皆忙しいので妥当だったから
韓国の文化や生活について一通り学んでから行くことが出来た上、出し物の練習もちゃんと行えたから。
まだ夏休み前は学校や、部活があったりしたから2週間に一回くらいのペースで良かった。出し物とかも自主練できる期間が多かったから、良かったと思う。
家が遠かったので研修が終わるのが少し遅いので、あの回数じゃないとすごく疲れそうだったから。
出し物の練習時間はもっとあっても良かったとは思いますが、学校や部活もあり、なかなか全員集まるのが難しかったので適当な回数だったと思います。

<少なすぎる>

サヨナラパーティーの練習や、一緒に行く団員との交流を通してさらに仲を深めるためにもあと1～2回欲しかったと思う。
もう少し出し物の準備の時間が欲しかったなという感じです。

4. 事前学習で扱わなかったことで、事前に知りたかったことや次回団員に伝えたいことがあれば教えてください。

持ち物のエコバックは手荷物の方にあると便利
寒い、暑い、うれしい、楽しみなどの気持ち、感じ方を表す単語はいただきますなどよりも使ったので、発音練習をしてもよかったのかなと思います
お土産を沢山買ったりすると思うのでサブバックは必須です。

5. 派遣期間（5日間）はいかがでしたか。

適当である	10
多すぎる	0
少なすぎる	2

<適当である>

違う文化、言語の国での生活は自分が思ったよりも実際は疲れていたもので、ちょうど楽しく終わられる期間だと思う。
ホストファミリーともっと一緒にいたい気持ちはありましたが、それは多分何日間でも変わらない気持ちだと思います笑。私事なのですが、家族と2泊3日以上離れたことがなくて、3日目のお昼くらいから、ホストファミリーと離れたくない気持ちもあるし、家族に早く会いたい気持ちもあって泣いてしまいました。でも、5日間がちょうど良い期間だと思います。
皆忙しいので妥当だと思ったから
普段、日本で普通に過ごしている中、夏休みに海外へ行く、という日程だったから、いきなり二週間とかではなかったから、体にも精神的にもちょうどいい期間だったと思う。
長すぎると夏期講習や部活に響いてしまうため。
少し物足りない気もするが、高校3年生の私にとってはちょうど良い長さだったと思う。ただもう少し全体での観光もしたかったので、1週間くらいあっても楽しそうだなと思う。
五日間で韓国の文化について大体知れたので、このくらいの期間がちょうどよかったと思う。もう少し長くてもよかったかもしれません、、、。
長いと言われたら長く、短いと言われたら短い満足できる期間だったから。
5日間で韓国の文化を直接学ぶことが出来ました。日本の友達とも仲が深まりましたし、韓国人の友達も沢山出来ました。長すぎず、短すぎず適当だと思います。

<少なすぎる>

団員の出し物練習をする機会がもう少しあるといいと思う
体調を一日でも崩してしまうと、ホストファミリーと一緒に過ごす時間が本当に少なくなってしまう、実際の韓国の様子などを学ぶ暇が少ないから。

6. 派遣時期（夏休み前半）はいかがでしたか。

適当である	12
適当でない	0

後半になると課題等があり、忙しくなるから。
夏休み中間だと部活で忙しく、後半だと部活の大会があるので、前半ありがたいです。 また、暑すぎない時期で、過ごしやすかったです。
部活、塾にほぼ被らなかったから
学校の無い時期で参加しやすかった
夏休み後半になってくると、宿題などで忙しくなる上、研修後のレポートを書く時間も 夏休み中にとることができるから。
個人的に、夏休み後半だと部活の試合があったり練習の量が増えたりするから、まだ試 合とかもない夏休み前半で良かった。
夏休みの前半は用事が比較的に少ないので良かったです。
受験勉強があるので、早めに実施してもらえると少し心の余裕を持って参加できるから。 また、8月に入ると暑さがより増すので、暑すぎない前半がちょうど良かった。
夏休み後半は宿題に追われている人も多いと思うから。ちょうど真ん中ぐらいに実施し たことで、夏休みの過ごし方（韓国語を勉強するということ）を気が付くきっかけにな ったから。

7. ホストファミリーと意思疎通ができましたか。

まったく問題なかった	3
分からないこともあったが、だいたい意思疎通できた	8
どうしたらよいか分からず困ることが多かった	1

8. ホームステイ期間中、どこで、何をして過ごしましたか

< 1 日目（金曜日夕方以降） >

お家でホストマザーが作ってくれたご飯を食べ、お散歩がてらスーパーに行ったり文房具屋さんに行ったりしてその後かき氷を食べました。
バスを降りて、そのままスーパーに行きました。アイスや、お菓子、りんごや辛ラーメンなどの私が好きな食べ物を沢山買ってくれました。おうちに帰って、日本からのお土産を渡しました。すごく喜んでくれて嬉しかったです。その後、お風呂に入りました。日本とは少し違って操作が難しかったです。お風呂から上がって、スーパーで買ってくれたアイスを食べながら韓国ドラマを皆で見ました。韓国ドラマが終わったので、カルグクスを食べに行きました。私は辛い食べ物が好きで、キムチをたくさん食べました。ホストファミリーの皆さんにすごく驚かれました。お店を出たあと、「愛の不時着」の撮影場所に使われていた公園で散歩をしました。
ホストファミリーと一緒に料理を作った
近くの大きいスーパーに連れて行ってもらった。日本には無いような調味料や食べ物が置いてあって見ていただけで楽しかった。家ではテレビを見た。日本の番組やドラマが見れて驚いた。
お土産を渡し、ホストマザーとホストシスターとカフェまで散歩しに行った。
家で、ホストシスターと一緒に夜ご飯のキンパを作った。 オッパが、バジルクリームのコロッケパンを買ってきてくれて食べた。 夜ご飯の時に、オンニと電話をして、家の近くにある雑貨屋さんとかを教えてもらった。 夜ご飯を食べた後は、ホストシスターとオッパがお土産を買うのに付き合ってくれた。 オッパが、韓国風のかき氷をごちそうしてくれた。
韓国の料理店→写真が映えるスポットとパン屋→韓国のカラオケ→家でホームステイ先の子と一緒にゲーム。
パートナーの学校に行く、家族と一緒に外でサムギョプサルを食べる、忠州市の若者が遊ぶようなところで写真を撮ったりして遊ぶ、忠州市の大きい公園に行く
家でキンパを作りました。そして、アートボックスでお土産を買い、抹茶かき氷を食べました。家で、ゲームやおしゃべりをしました。
家に着いて、まず猫に挨拶をした後、ホストファミリーへのプレゼントを渡した。夜ご飯を作って、7時ごろ家族と一緒に家で夜ご飯を食べた。日本の家族に連絡を取って、部屋で1時間休んだ。その後、9時ぐらいにソルビンを食べた。マンゴーと韓国伝統の味のものを注文したが、韓国伝統の味のほうがおいしかったと思う。ドライブをし、愛の不時着のロケ地に行った。イルミネーションがとてもきれいだった。写真をいっぱい取り、11時ごろに家に帰宅し、12時に寝た。
焼肉屋、買い物
家に到着すると家族が暖かく迎えてくれました。お土産に日本のお菓子を沢山持っていたのですが、とても喜んでくれました。夜ご飯は近所でジャージャー麺を食べに行き

ました。とても美味しかったです。その後はホストシスターと 2 人でコスメショップやコンビニに行き、写真館で韓国のプリクラを撮りました。

< 2 日目 (土曜日) >

ホストシスターが通っている学校に案内してもらい、見学をしました。また、韓国の図書館なども案内してもらいました。その後シスターの友達と合流し、品揃えが良いと有名な韓国の DAISO に連れて行ってもらいました。そしてタクシーとバスを使って移動し、ゲームセンターに行った後プリクラを撮り、カラオケに行き、カフェでお話をしました。韓国の JK がどのように遊んでいるかを体感できて面白かったです。夕飯はバーベキューに連れて行ってもらい、家族で UNO をしたりと楽しい時間を過ごしました。

6 時半に起きたら、まだ寝てていいと言われたので二度寝しました。9 時くらいにまた起きたら、机の上にすごく豪華な料理が置いてあってびっくりしました。5 種類のキムチがメインで、辛さが違いました。他にはサラダや漬物などを白米と一緒に食べました。その後、りんごとアイスを食べ、支度をして出発しました。家の近くにあるカフェで、チョコスムージーを飲んで、また少し車に乗って湖を見て、サービスエリアで桃と、チーズスティックを食べました。また車で移動しながらキャラメルサンドを食べました。その後、ケーブルカーに乗って忠州市の山や湖の景色を見ました。すごく綺麗で迫力がありました。ケーブルカーを降りて、パン屋さんでスコーンを食べました。隣にあったお菓子屋さんで、すごく可愛いキーホルダーが売っていたので買いました。それから家に帰って、またすぐ出かけました。私のリクエストで、トッポギを食べました。すごく辛かったけど、トッポギの種類が沢山あって、美味しかったです。食べ終わったあと、散歩を少しして、ダイソーに行きました。日本とは結構違って、可愛いものばかりでした。家に帰って、アイスを食べながら韓国ドラマを見て、シャワーを浴びて寝ました。

忠州湖に行ったり、かき氷を食べた

朝からいろんなお店がある場所に連れて行ってもらった。そこで韓国で流行っているスイーツを食べたり、韓国式のプリクラを撮った。図書館に行った。日本のマンガが韓国語で書かれて置いてあって嬉しかった。帰りにバスに乗ったが日本バスより大きくて広かった。午後から民俗村に連れて行ってもらった。昔の暮らしやしきたり等見て楽しく学べた。韓服を着て嬉しかった。イベントも見れて、楽しかった。暗くなるまでそこで過ごした。夜遅くにピザを頼んでみんなで食べた。

オンマがお寺に連れて行ってくれた。お寺では、仏様に挨拶をしてお寺を案内してもらった。お寺の住職さんと、オンマがいろんな説明をしてくれた。大型マーケットにも行き、帰りにホストシスターとオンニ達とローラースケートをした。夜はオッパが作ってくれたパスタを食べ、ご飯の後 ARTBOX に行ってお土産を買った。

体育館に行きバドミントンとバレーボール

→昼ごはんの時にキンパ作り→博物館→スーパー →ホームステイ先のことその友達とだけで焼肉(夜ご飯)→ホームステイ先のことその友達と公園でバスケ

キンパを朝一緒に作る、忠州市の歴史博物館に行く、マッグクスを食べる、ロッテマートに行く、ピンス食べる、家に戻ってきてチキン食べる、パートナーの友達と一緒にちょっと外に行く、遊覧船に乗る、塔を見る、カフェに行く

韓国のお寺に行き、お寺の人にお菓子をご馳走してもらいました！公園でチョコリ体験をして、韓国式そばとチキンを食べました。また、コンビニでお菓子を買いました。そのあとは、見晴らしの良いカフェに行き、飲み物を飲みながら忠州湖の写真を撮りました。そのあとは、マートに行き、お菓子を買いました。家に帰り、おすすめの洋服屋さんにいきました。ローラースケートをしました。

7時半からご飯（パンとフルーツ）を食べ、8時に駅に向かった。8時半のソウル行のバスにのり、移動中はホストシスターが寝ていたので景色を見ていた。10 時につき、市場のあるほうまで移動して、韓国式パンケーキ？、トッポギ、キンパを食べた。暑すぎるのでキャンドルづくりをするプランに変更し、仁寺洞にいった。カフェで休んだ後、景福宮のある所までバスで向かった。カンボクを着た後、景福宮を回って写真を撮たくさん撮った。その間外で行われている、先生たちの人権のデモがしていた。非日常的な昔の宮殿にタイムスリップしたようなのかな空間と、非日常的なデモという現実の社会問題がぶつかるという何とも言えないぶつかりを感じた。途中アメリカから世界一周している団体と一緒に行動した。韓国式プリクラ、人生4コマを撮った後、バスターミナルに向かった。ソウルでお姉さんとはお別れになってしまった。7時半に忠州駅につき、8時半ごろに家族とサムギョブサルのお店に入ってご飯を食べた。9時半ごろにタンフルのお店に行き、持ち帰り手食べた。ホストシスターの中学校の卒業アルバムと家族アルバム、テレビと一緒に見てねた。試したほうがいいといわれもらったパックを夜使った。感謝の手紙も夜に書いた。

韓国民俗村、大型スーパー

朝ごはんはお母さんとホストシスターとキンパを作って食べました。家庭ならではの具材を使っていてオリジナルキンパを食べました。美味しかったです。日中はホストシスターと忠州市を回りました。プリクラを撮ったり、コスメを買ったり、カフェや本屋に行きました。タクシーやバスにも乗り、乗る時の会計にも挑戦しました。お昼ご飯はおおすすめのトッポギのお店に行きました。ホストシスターの友達にも会いました。夕食は家でお母さんがサムギョブサルを作ってくれました。近所に住んでるホストシスターの幼馴染とも一緒に食べてそのままお父さん、お母さん、ホストシスター、幼馴染とドライブに行きました。湖が見えるカフェでいちごスムージーを買い、忠州市の有名な 7 層石塔に行き写真を撮りました。その後はライトアップを見たり、山の上の方まで登り家族みんなで夜景を見て楽しかったです。

< 3 日目（日曜日夕方まで） >

ずっと行ってみたかった本屋さんに連れて行ってもらい、韓国語の本を 2 冊買いました。その後、またカラオケに行き楽しく歌いました。

8時くらいに起きました。この日は、若干洋食で、パンやリンゴ、フレンチトーストを食べました。その後、ホストマザーが髪の毛を結んでくれて、荷支度をして、出発しました。スーパーに寄って、お肉と、洋服を買ってくれました。お昼ちょっと前にキャンプ場に到着して、湖に椅子を置いて、足を冷やしながらみんなでお話しました。混んでいたもので、30分くらいしか居られませんが、面白かったです。その後ご飯を食べる場所に行ったのですが、混みすぎていて食べられるスペースが無かったので、車で少し離れたところにいたおばあさんの家に入らせてもらって、サムギョプサルを食べました。初めて食べたので、お肉をレタスに挟むのが少し難しかったです。おばあさんにお礼を言って、さよならパーティの会場に向かったのですが、早すぎたので、一旦家に戻りました。そしたら時間がかかってしまい、遅れてしまいました。
韓服体験をした
市場に連れて行ってもらった。想像していた市場とは違って驚いた。売っているものは旬の果物や野菜、餃子、ポン菓子等いろいろ売っていて見て回っているだけだったが楽しかった。帰りに韓国の学生に人気の雑貨屋さんによった。可愛いキャラクターばかりで楽しかった。
木工体験をした後、おかゆ屋さんでお粥を食べて、その後移動してカフェに行った
朝に、ホストシスターの中学校に連れて行ってもらった。 図書館にある食堂で、ホストシスターがアイスを奢ってくれた。 お昼の前に、オンニとホストシスターと一緒に ARTBOX と、髪飾りとかが売っているお店にお土産を買いに行った。 お土産を買いに行った時に、オンニがハットグを奢ってくれた。 ホテルに行く途中で、アッパが大きな像があるところに連れて行ってくれた。
教会→家でみんなでゲーム→韓国の歴史があるお寺
伝統的なお寺、カフェ、ロープウェイに乗る
アートボックスに行って、お土産を買いました。ホットックを食べました。バナナウオも飲みました。車で向かいながら、名前は忘れてしまったんですけど、石の神様が祭られているお寺に行きました。
ダンスの練習やこの日の会話の練習のため8時半ごろに起きた。10時にトックという新年のお祝いの時に飲むお餅の入ったスープとバナナスムージーを飲んだ。11時ごろに家を出発し、ホストマザーの持っている歯医者に行った。春歯科という名前のクリニックだったので、春夏秋冬を韓国語でホストファザーに教えてもらった。その後ロッテマート（スーパー）に行き、家に帰ってデリバリーで頼んだチキンとチーズボールを食べた。その前の日に撮った人生4コマのデコレーションをロッテマートで買ったケースとステッカーを使ってした。1時間半ぐらい休憩を取った後、カラオケ（ノレバン）に行き、計18曲ぐらい歌った。たまたまホストシスターが韓国の曲をあまり聞かず、日本の曲しか歌っていない子だったので、大体日本語の曲を歌っていた。コンビニアイスを食べた後、家に帰り、家の庭で家族と写真をたくさん撮った後、ホテルに向かった。

中央塔公園、うどん屋、資料館
朝からケーブルカーに乗りに行きました。かなり暑かったですが、休憩しながら絶景を見て写真を撮りました。暑かったのでマンゴーアイスを食べました。お昼ご飯はタッカルビを食べに行きました。韓国ではチキンを食べ終わったらそこにご飯を混ぜてチャーハンにして食べました。それがとても美味しくて沢山食べました。

9. ホームステイ期間中、特に楽しかったこと、困ったこと、失敗したことをそれぞれ教えてください。

<楽しかったこと>

ホストシスターと文化の違いやさまざまなことについて話せたこと。
夜遅くに公園で散歩したのが特に楽しかったです。日本と空気が違って、新鮮で思い出に残りました。
ホストファミリーと一緒に料理を作った
ホストファミリーとのお出かけ
ホストファミリーの家でご飯を食べたこと
ホストシスターとのお喋り・韓国料理作り
ホームステイ先の子とその友達と遊べたこと。→韓国の学生の雰囲気や日本の文化の認知度を知れたから+面白くて優しい人が多かった。
遊覧船に乗って夜景を見たことがたのしかった
みんなと悩みながら買い物をするのが楽しかったです。
ノレバンで急に仲を深めることができたので楽しかった。ハンボクではホストシスターの子も着たのが3回目で、髪の毛のセットまでしてもらえたので、2人ともうきうきした気分楽しく過ごせた。一番楽しかったのはやっぱり、ホストファミリーとお話をしていた時間だと思う。
韓服を着たり、買い物をしたり、少し会話ができたこと。
ホストシスターは日本語がとても上手だったので分からない韓国語を教えてもらったり、逆に私が日本語を教えたりしながら会話をしました。お買い物したりおしゃべりしたことが楽しかったです。

<困ったこと>

特にないです。
たまに、韓国語が伝わらなかつたり、分からなかつたりしました。翻訳機を使って分かりはしたのですが、WiFiがない場所だと、翻訳機が、使えなかつたので伝わりにくいことが多くて困りました。
体調を崩していたときに、言葉が不自由だったので、話すのが大変だった
オンマや、アッパと言葉があまり通じなくて会話が出来なかつたこと。

ホームステイ先の家族との生活習慣が異なったためいつもと就寝時間が変わったこと。
特にないが、強いて言うならごはんの量が全部多くて食べきれないこと
韓国式そばが辛すぎたことです。
シャワーの水の出し方とクーラーのつけ方がわからなくて大変な思いをした。ホストファミリーと一緒にいてもいいのか、テレビを見ていいのか、話しかけてもいいのかなど色々と悩んだところはあった。
言葉が通じず、言いたいことが言えなかったこと。
野菜をほとんど食べていなくて、食生活がかなり偏ってしまい、口内炎やニキビが出来てしまいました。積極的に野菜や代わりになるビタミンを摂取した方が良かったです。

<失敗したこと>

朝起きるのが少し遅くなってしまったので早く寝て、早く起きたらもう少し色々なことができたなと後悔した。
スマホの使える時間の設定を間違えてしまって、ホストファミリーとの写真をあまり撮れなかったことです。でも、ホストファミリーがたくさん写真を撮ってメールで送ってくれたので問題なかったです。
車で酔ったこと
お土産をもっとたくさん持っていけば良かった
ご飯を食べすぎたこと。
困った事と並行して、言葉があまり通じなかったから、もっと言葉を勉強してくればよかったと思ったり、もう少しジェスチャーを使ってみて会話をしたりすればよかったなと思った。
特になし
もっと話しかければよかったと思いました。
ホストシスターと車の中などもっと話しかけたほうが良かったと後悔している。スマホを使っていたり、静かな雰囲気でも気にせず話しかける勇気が必要だと思った。
もっと韓国語を勉強してくれば良かったこと。
お母さんとお父さんとあまりコミュニケーションが取れなかったことです。韓国語は簡単なフレーズや軽い聞き取りぐらいしか出来なかったので会話ができなかったことが悔しかったです。もっと韓国語を勉強していけば良かったと思いました。

10. 韓国の一般家庭に宿泊してみて、感じたことを教えてください

雰囲気は日本の家庭と同じだった。 唯一異なったのはお風呂で、アメリカのようにトイレとお風呂が一緒になっていた。 食事の時間帯や形式も日本と通ずるものを感じた。
すごく暖かく迎え入れてくださって、ありがたかったです。ホームステイ中は、私優先のような生活をしてくれていて、ありがたいのと同時に、少し申し訳なかったです。言語の壁はありましたが、何となく雰囲気伝わりました。
意外に日本製品が多く、儒教の精神があまりないと感じた。
これまで自分が見聞きしていたものより日本とあまり変わらなかった
日本と、全然違うと感じたことは、お風呂やトイレ。ホテルのユニットバスに似ている感じで、湯舟がなかった。 また、一回の食事に出てくる料理の量も多くてびっくりした。 一番びっくりしたことは家族仲や、兄弟仲が凄い仲が想像以上に良かったこと。日本よりも、家族仲をととても大切にする文化なのかな、と思った。
日本とは違う文化があったけどホームステイ先の家族のおかげですぐ馴染むことができたためよかった。
1番驚いたのは本当にキムチ冷蔵庫があることで、ドラマで見るような韓国という生活が見れて嬉しかった。また、やはり旅行では韓国語を使う機会があまりないので、現地の人と沢山話せて自分も成長できたと思う。
韓国の中でもかなり広い家だったようですが、とにかく広かったです。秘密部屋があちこちにあって、どうやってこの部屋開けるんだろうと思うところもありました。家が迷路のようで暮らしていて楽しかったです。家の外に広い庭があり、バーベキューをしたこともあると聞きました。
日本と、さほど変わらないこと。
一般の家庭にお邪魔するのでずっと緊張していましたが、一緒に食卓で食事していると家族になった気分がとても嬉しかったです。最初はなかなか慣れませんが、だんだんと慣れて初めての家でも自然と生活出来ました。

11. 今回のホームステイは、あなたにとっていい経験になりましたか。

はい	12
いいえ	0

韓国人と実際に文化の違いについて話すことで、文化の違いがより身近に感じられ、日常生活に潜むさまざまな違いを体感することができたから。また、話を聞くのと自分で経験してみることは大幅に異なるものなので、経験することができて良かったと思ったから。

初めて外国に行って、友達が出来て、連絡を取れている事がすごく嬉しかったです。また、ホームステイをして短期間でも一緒に生活出来たのが良かったです。
言語が通じなくても、なんとかなるんだと思い、自分に少し自信ができました、
初めての事ばかりで、食事もただ韓国に旅行に行くのとは違うことを体験できてとても良かった。家庭にお邪魔させていただくということも日本にいても難しいことなのでそれを韓国で経験できて良かった。
少しの時間だったけれど、初めて 1 人で言語の通じない場所で過ごすことで、今までにない体験ができた。大変なことも多かったけれど、ホストファミリーとのコミュニケーションも楽しめたから。
日本とは違う、異文化の体験が出来たのが一番だと思う。ホストシスターと会話をしている中でも、日本と違う事を感じる事が出来たし、ホームステイ先で宿泊している時も、違うと感じる事があったから、とても勉強になった。 また、言葉があまり通じない中でも、ジェスチャーなどを使えば結構、意思疎通が出来ることも分かったから、来年日本に来たときにしゃべる機会があったら、自分から沢山話しかけよう、という目標もできた。
異国の文化に触れることができるし、一生に一度くらいの貴重なことだから。
何度も書いているが、旅行では知ることの出来ない韓国人のリアルな日常生活を体験することができて、表面的なものではなく深く知れたことが嬉しかった。また、パートナーは日本語がとても上手だったのであまり困ることも無く、緊張しすぎないホームステイを過ごせた。
私が通常なら会えない人と会えたからです。ネットでは、韓国人はせっかちらしいといわれていますが、実際はのんびり休日を過ごしていて、実際に行かないと、一緒にいないとわからないということを気が付くきっかけになりました。私とは違う暮らし、外食が中心のおうちに泊まり、お互いの生活の違いなど、普段は踏み込みづらい話題でも家族のようにいたので難なく話すことができ、よく昔のことは知らないけれど、何でも話せる親友、お姉さんみたいな存在ができたからです。
1 人で言葉が通じない所に行くのは大変だけどいい経験になったから。
ホームステイが初めてだったので不安や緊張がありましたが、ホストファミリーがとても優しく接して下さったので何の不自由もなく楽しく過ごすことが出来ました。韓国の一般家庭にお邪魔して韓国の日常や食、文化を直接体験できてとても素晴らしい経験になりました。

12. 今後もホストファミリーと交流を継続していきたいと思いますか。継続する場合、どのような交流をしたいですか。

今度家族ぐるみで電話をすることを約束しました。また、SNS を交換したので今でも近況などを連絡しています。
カカオトークを繋げたので、頻繁に連絡をとっています。これからも連絡を続けていきたいです。
たまにメールでやり取りをしたいです。
日本に来てもらい一緒に過ごす 自分が韓国に行く 連絡を取り合う
今年秋にホストファミリーが日本に旅行に来るそうなので、そこで一緒にホストファミリーが好きなたこ焼きを食べる予定です。また、韓国に旅行にいつか行った際も、韓国で会いたいです
年に何回がホームステイをし合ったり、自分が短期でも、一カ月位韓国に留学するのもいいなと思った。ホストシスターはまだ日本に来ていないから、まずは日本の、武蔵野市の事を紹介して案内したいと思った。
連絡先を交換したからメールを送ったり、住所を教えてもらったためまた韓国に行った時に訪れてみようと思う。
今度は私が、ホストファミリーが日本に来たら観光地や日本の文化、伝統を紹介したい。日本の美味しい食べ物も沢山食べて欲しい。 パートナーとはやり取りを続けていて、お互いの学校や勉強、友達の話をしている。
思います。ペアの子に私のうちに来てほしいです。
ホストファミリーと交流したいです。1年後、2年後に韓国でしたさよならパーティーみたいに団員とも定期的に集まれる会をオンラインでもいいのでしたいです。今度は日本に呼んで私が案内をしたいです。定期的に手紙を送って、ホストファミリーとの思い出を一緒に思い出せることをしたいです。
しっかり韓国語を話せるようになって会話がしたいと思った。
インスタを交換し、連絡を続けています。お互い高 3 ということもありしばらくは勉強が忙しくて会えませんが、お互い大学生になったら必ず会おうねと約束したのでまた会う予定です。ホストシスターが日本に来たら東京を案内しようと思っています。

13. 韓国では、どのくらいお小遣いを使いましたか。

持参した額	使用した額
20,000 円	約 15,000 円
30,000 円	4,300 円
30,000 円	20,000 円
28,000 円	約 20,000 円
20,000 円	10,000 円
25,000 円	17,000 円
30,000 円	13,000 円
30,000 円	15,000 円
20,000 円	13,000 円
25,000 円	15,000 円
20,000 円	10,000 円
約 30,000 円	約 20,000 円

14. 主なお小遣いの使いみちを教えてください。

お土産代、食事代
お土産、お菓子、キーホルダー、カフェでマカロン
お土産、飲食費
お土産、出かけ先での飲食代
日本へのお土産代
お土産、飛行機の中で食べる物
お土産(お菓子など)
お土産、コスメ、その他日用品
日本へのお土産代
スーパーでの買い物代（私がお金を出したいといったから）、空港での買い物代、ホストファミリー以外に行った時のコンビニ代
お土産
お土産のコスメ、スキンケア、雑貨、カップラーメンやお菓子。

15. 派遣前と現在で、韓国に対するイメージは変わりましたか。変わった場合、どのように変わりましたか。

イメージの変化はなかったが、文化をより身近に感じることができた。
私は元々K-POPが好きだったので、韓国が好きでしたが、逆に韓国人が日本人に悪いイメージを持っているのではないかと思っていました。ですが、みんなとても優しく、普通のお店でも、日本語をすごく上手に話せていて驚きました。その点で、韓国の印象はさらに良くなりました。
もともと考えていたよりも日本のことを理解しようとしてくれた。
韓国に対して、日本人は憧れがある部分もあると思うが、行ってみると、日本と同じくらいか、それ以上に広々とした道路や、昔からあるようなお店がたくさんあった。日本と似た雰囲気だった。
思っていたより、日本の学生と韓国の学生の日常生活は変わらないと思った。
都会で建物ばかりだと思っていたが首都であるソウルにも緑がたくさんあって景観がとても良かったこと。
特に大きくイメージは変わらなかった。現地の人たちもみんな優しく接してくれたし、街並みも緑豊かで良かった。
変わりました。日本と同じようなイメージでしたが、全然違い、驚きました。
派遣前はソウルと違い、のどかそうと思っていたが、忠州市にもほかの市から引っ越して住んでいる人もいたので、本当にキャラクターは人それぞれでみんな同じと思ってはいけないなと思った。特に驚いたのが車のスピードで性格は関係なしにみんな危険だなと思い、死を覚悟するくらいのスピードで本当に怖かった。場所に関係なくみんな優しくかった。韓国人は、日本人はすぐ気が付くだろうと思い、あまり考えず暮らしていたが、韓国人と勘違いされる場面が多々あり、韓国語があまりわからないので焦った。韓国人は英語が得意と聞いていたけれど、レジの人など英語より日本語のほうがうまい、わかる人が多くて驚いた。
変わらなかった。
韓国人は少し無愛想なイメージがありましたが、実際はどのお店の店員さんも優しくかったです。また、お店に入った時や出た時に挨拶を沢山していたことが驚きました。

16. 韓国での滞在中、文化の違いや考え方の違いを感じることはありましたか。それはどんな体験でしたか。

バスやタクシーに乗ると、超高速運転だったり、なんでも素早くやろうとする文化があると感じた。

日本でも人によりますが、沢山水を持ち歩いて、こまめに飲む生活をしていました。また、時間は関係なくシャワーを浴びるのが当たり前でした。

食べ物の味が全体的に辛い上想像していたよりものすごく多く食べるのだと知り、日本との文化の違いを感じた、

韓国のお店はほとんどどこもお会計がカードだった。車道は左側で速度も日本より 10km 以上速かった。車線が広く 4 車線もあった。信号機が 3 つではなく 4 つだった。路上駐車の数が多かった。お箸やスプーンは銀色で少し重たかった。ご飯のとき、パイナップルが出る。目上の方には必ず敬語を使っていた。日本のエアコンは壁の上の方に取り付けられているが韓国は立って置いてあった。

1 日目の夜、ホストファザーが親に電話しなくて良いのかと聞いてきたこと。電話する必要はないと母が言っていたと言うと、驚いていた。

ホームステイをしている時に、兄弟仲がとても良くてびっくりした。

買い物とかに出かけたときに、兄弟で肩をくんでいたり、「可愛い」とかの言葉をよく使っていたから、韓国は、家族や兄弟を大切にする文化なんだなと思った。

ご飯を食べる時に片手しか使わないこと。

ご飯を食べる時にお父さんが食べ始めるのを待たないといけない、目上の人に物を渡す時は必ず両手で渡さないといけない、など上下関係が日本よりも厳しいと感じた。もともと敬語文化で年齢を重視する国だとは知っていたが、日本では出来たら行儀の良い丁寧な人だなあ程度なのが、韓国ではルールとして成り立っていることに違いを感じた。もしそれを知らずに日本と同じように接してしまうと、相手が不快に感じるかもしれないので気をつけようと思った。

はい。チョゴリ体験です。着物と全然違い、驚きました。

車のスピードを見たときに本当にせっかち、早く行動しようとする気持ちが韓国の文化にあるのだなと気が付いた。日本は町のデザイン、景観を崩さないように配慮していると聞いたことがあったので本当にそうなのかと疑っていたが、実際韓国は原色や蛍光色など自然になさそうな色を使っているデザインが本当にあり、日本は目に優しい世界だなと思った。デモをよく起こすと聞いて日本と違うなと思った。

食事マナーの違いを感じることができた。

ご飯を食べる前と食べ終わりの挨拶をあまりしないことに驚きました。また、おはようなどの挨拶もなく韓国には日本ほど時間や場面に合わせた挨拶の言葉のレパートリーが少ないことが分かりました。

17. 今回の派遣の経験を、今後どのように活かしていきたいですか。

文化の違いをより身近に体感することができたので、今後それらを発信していき、日韓関係をより良好にしていきたいと思う。
まずは、プレゼンテーションを頑張り、派遣で外国の文化を生で知ることの楽しさを感じたのでもっと知りたいと思いました。引き続き海外に目を向けていきたいです。
この経験を活かし、日本と韓国の友好関係を深めるような職業に就きたいとおもった。
韓国語検定を受ける 韓国以外の国でも日本との差を調べたり、実際に行ってみる
韓国語の勉強をもっと頑張つて、意思疎通をもっと自由に出来るようになりたい。日本と共通点が多いと感じたので、韓国の人ともっと関わる機会を持ちたい
今回の派遣で、ホームステイを体験して、なかなか自分の考えが通じなかったり、自分の意見が言えなかったりしたから、自分の考えや意見をしっかり相手に伝える事は、どの国に行っても大切なことだともった。だから、もし自分が将来外国へ留学した時に今回思ったことや、感じたことなどを思い出しながら、人との交流を行っていきたい。
また海外に行った時に活かしたい。
私は大学では言語の違いや世界の国の文化の違いについて学びたいと思っているので、異文化とのコミュニケーションを通じて学んだ今回の経験はすごく役に立つ充実したものになると思う。韓国を知ることは日本の良さを知ることでもあるので、違う国の知識をつけるだけでなく、自国の文化についても詳しくなりたい。
将来の進学先、働き方を考えるきっかけになりました。ホストマザーは韓国人が日本の大学に進学するように、韓国の大学に通いなよと言っていて、そういうこともあるのかと気が付きました。今までその考え方をしたことがなかったので、アメリカなどにとらわれず、海外の大学進学も目に入れ将来を考えていきたいです。今回の経験を友人にも伝え、まだ海外旅行をしたことのない人、家族、学校以外で旅行に行ったことのない人にも挑戦することの楽しさを伝えていけたらと思っています。
もっと韓国語を、話せるようになってまた行きたい。
大学でも留学をしたいと考えているので今回の派遣プログラムで失敗したことを活かしたいと思います。そしてこの事業をきっかけにさらに韓国に興味を湧いたので韓国語を沢山勉強してまた訪れたいです。

18. 今後の派遣事業の参加者に向けてアドバイスがあれば教えてください。

最初はホームステイでとても緊張すると思いますが、とても優しい人たちがばかりで必ずいい経験になると思うので頑張ってください！
すごくいい経験になるし、自信を持って行ってください！韓国語が全く分からない状態の方は、基本程度は身につけておくより楽しめます。応援してます！
ホストファミリーの方やお土産でスーツケースがパンパンになるので大きめのものを持っていったほうが荷物のことを気にせずに楽しめると思います！
不安なことが多いかもしれないけど、行けば楽しいし、必ず自分のためになるので楽しんでほしいです！
韓国語はできるだけ話せるようにしておくとお過ごしやすいです！
私が今回派遣に行って、一番やり残したことは、ホストファミリーの人達との会話です。ホームステイに行くと、行く前は沢山話さず、とっていていざ行くと少し恥ずかしくなってしまうたり、言葉が全く通じなかったらどうしよう、と恐くなってしまいます。でも、ホストファミリーの方達は、そんなこと全く気にしていないので、片言でもいいからこれでもか！ってほど沢山話すことをお勧めします！意外とメジャーな日本の歌手や、英語が通じたりするので、それらを上手く使いながら会話するのもいいと思います。
持っていくお土産も、沢山持っていく事をお勧めします。私自身、韓国に行ってホストファミリーとマーケットに行った時、お菓子とかを買って貰ったのですが、買って貰った量が多くて、こんなに買って貰って大丈夫なのかな？と心配になるほどだったので、日本からのお土産も沢山持っていくといいと思います。でも、ホストファミリーにお土産を沢山買って貰っても、あまり心配せずに買って貰うといいと思います！
単語だけでいいからいくつか韓国語を覚えたほうがいい(自分は"イケメンです"という単語を覚えてそれをホームステイ先のお父さんに言ったことで笑いが取れて一気に距離を近づけることができました)
初めは緊張すると思うけど、最後はもっと居たかったと必ず思うはずです！韓国語が出来なくても沢山コミュニケーションして韓国の文化や生活を学んできて欲しいです。
韓国の人は、とてもやさしいので、心配せず行ってきてね！
自分の気持ちを何かをした後すぐに言葉としていったほうがいいと思います！後悔するよりも行動が先だと思って、躊躇せず、話しかけ、使いそうなものはすぐ買ったほうがいいです。私は日本にレターセットを2つ忘れてしまったので、私を思い出してくれそうな、印象深いスポットでその絵が載っているレターセットを買いました。お金は心配しなくても余るのでどんどん買いたいものは買ったほうがいいと思います。ポケットに入るぐらいのメモ帳があるだけで研修の過ごし方が変わると思います。急にいろんなことが思いつく、刺激的な研修です。韓国語を読めたので、一層気づきがあり、楽しくなりました！コンビニと温泉には初日に1回行くことをお勧めします。
韓国語は、しっかり学んどいた方がいいよ！

不安や緊張もあると思いますが、なんとかなるので恐れず挑戦してみよう！なるべく沢山韓国語を話して分からない単語などがあれば積極的にホストファミリーに質問するととても良いと思います。ホストファミリーは優しいので我慢せずに言いたいことがあればしっかり伝えましょう！このプログラムに参加することで確実に自分のレベルアップにもつながると思います。頑張ってください！

保護者アンケート結果

◎ 帰国後の団員の様子を見て、今回の派遣事業への参加をどのように思われますか。

ホストシスターやそのお友達などと継続的に交流を持ち、友達として、特別なこともなく普通に接することができていることが素晴らしいと感じます。世界のどの国においても、若い世代のこどもたちには、おとなの世界に巻き込まれることなく交友を深めていける機会がこうして増えていくことが、互いの国への理解と平和への希望に繋がると信じております。その上で、未来を担う世代が歴史を学ぶことの意義や自国についてしっかりと考え、自分のこととして行動していける若者になってくれることを切に願い、行政としてこのような機会を設けて下さっていることに心より感謝しております。
他国の文化を学ぶことを通して自分の住む国や市に対し多角的に見れるようになったと思います。家族や学校の友人と旅行に行くというわけではなく、他校の学年も違う仲間と目的を持って訪問することに意義があると思いました。
親元を離れて同じ武蔵野市に住む他校の同級生、先輩達と共に韓国訪問、ホームステイをさせて頂けたことは、娘にとって貴重な体験になりました。物心ついてから海外渡航は初めてだったので、未来を考えるきっかけになったと思っています。
韓国から戻ってきたその日、興奮気味に本人が妹に「絶対、海外ホームステイを経験したほうがいいっ!!」と繰り返し話をしていました。息子のその姿から本当にいい経験をして来たのだと感じました。
初めは不安がっていたものの、何度も研修を受け、現地についての知識が増えるにつれ、驚くほど意欲的に準備するようになりました。毎日楽しそうな様子が送られてきたり、帰ってからもホームステイ先の方々と連絡を続けたりと、異文化に触れ続ける本当に良い経験ができたようです。中学生という少し大人に近づいている中で、このような大きく成長できる機会を頂き、とても感謝しています。
異国の人々、文化を理解し、海外に対する心理的な壁が低くなったような様子です。 ホームステイを通じて一般の旅行では得られない経験ができたことが特に良かったと思いますが、現行のスケジュールでは短すぎで、本人の意識に影響を及ぼすほどの経験ではないかもしれません。
異文化を体験する貴重な機会を頂け感謝しております。 短期間ではありますが、観光旅行と違い、実際に生活や習慣に触れることで、より深い文化や価値観の理解につながったと思います。特に同世代のパートナーとの交流は、お互いの学習時間や方法、お洒落や美容についてなど話し、共感し合い身近に感じ点もあれば、刺激を受けたりと、実りの多いものだったと感じております。 また、以前から勉強していた韓国語を使うチャンスを得て、語学を学ぶことの楽しさや意義を実感したようです。
帰国後は「楽しかった。すぐにでも再度行きたい」と言っています。韓国に興味を持ち始め、韓国語を学び始めました。将来の職業についても考え方が変わったようです。

素晴らしい経験だったと思います。家族から離れての海外体験は、何にも代えがたい貴重なものとなりました。プログラムの内容も充実していて、何より参加後にプレゼンテーションの機会がある事もこの交流が確かなものとなると感じられますし、そこに参加させて頂ける事に感謝しております。
武蔵野市の事業という事で、安心して海外派遣事業に参加出来ました。今後の人生においてとても貴重な時間であったと思います。 韓国語は少し読めるようですが、会話は挨拶程度での参加でした。覚えていった韓国語は全く通じず、ホームステイ先のご家族も日本語がわからず、コミュニケーションが取れない事で不安になり自信を無くしてしまったようです。ホームステイのご家族に色々と気を使って頂いたのに、中々応える事が出来ず申し訳なかったと落ち込んでいました。会話が出来ない子はホストファミリーの方で少しでも日本語が話せる人をあてて頂けるとまた違ったのではと思います。ホームステイは辛かったようで、もう韓国語はやらないと言うかと思ったのですが、今後も韓国語の勉強は続けていきたいと前向きな言葉を聞いて正直驚きました。
市役所からバスで送迎、市の担当の方には渡航手続きなども指示して頂き、手厚い派遣事業だと思いました。 娘は異文化を存分に楽しみ、お友達ができたことを心から喜んでおります。
子供が韓国滞在中に体調を崩してしまいましたが、連絡をこまめに頂き、安心できました。短い日程でしたが、いろいろな充実した体験が出来た様で嬉しいです。